

Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition

ネットワークおよび分散システム
インストールとコンフィギュレーション
ガイド



Agilent Technologies

注意

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2018

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

マニュアル番号

M8204-96000

エディション

Rev. B

07/2018

Printed in Germany

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

ソフトウェアリビジョン

このガイドは、Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition のリビジョン A.04.09 に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

ソフトウェアが米国政府とのプライム・コントラクト（元請契約）またはその下請契約の履行に際して使用される場合、ソフトウェアは、DFAR 252.227-7014 (June 1995) に定義された “Commercial computer software”、FAR 2.101 (a) に定義された “commercial item” または FAR 52.227-19 (June 1987) もしくはこれに匹敵する政府機関の規則や契約条項に定義された “Restricted computer software” として提供され、使用許諾されます。ソフトウェアの使用、複製または開示は、Agilent Technologies の標準商用ライセンス条項に従うものとし、米国政府の国防総省以外の部局は、FAR 52.227-19(c)(1-2)

(June 1987) で定義された Restricted Rights を超える権利を取得しないものとします。米国政府のユーザーは、すべての技術データに適用される FAR 52.227-14 (June 1987) または DFAR 252.227-7015(b)(2) (November 1995) で定義された Limited Rights を超える権利を取得しないものとします。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**警告**を無視して先に進んではなりません。

本書の内容 ...

このマニュアルでは、OpenLab CDS EZChrom Edition（システムアーキテクチャ、ライセンス方針、データの完全性）のコンセプトおよび OpenLab Control Panel を使用する管理について解説しています。さらに、ここには OpenLab CDS EZChrom Edition についての特定のな情報も含まれています。

表 1 このドキュメントで使用される用語と略語

用語	説明
CDS	クロマトデータシステム
EZChrom	OpenLab CDS EZChrom Edition
Data Store	OpenLab Data Store。リビジョン 2.3 以降、製品名は OpenLab Server 2.3
OpenLab Server	新しい製品名。旧称 OpenLab Data Store
Content Management	OpenLab Server の一部として提供されるデータストレージコンポーネント
ECM	OpenLab Enterprise Content Manager
AIC	Agilent 機器コントローラ
Control Panel	OpenLab Control Panel
Microsoft コントロールパネル	Microsoft Windows オペレーティングシステムの一部
Shared Services	ライセンス、ユーザーとロール、機器 コンフィグレーション、セキュリティポリシーなどに関する一連のコンポーネントとサービス。 すべてのコンピューターにインストールされ、 OpenLab Control Panel からアクセスします。
OpenLab CDS Shared Services Server	Shared Services を実行するサーバー。 以前は OpenLab Shared Services Server でした。

1 アーキテクチャコンセプト

この章では、Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition アーキテクチャの一般的なコンセプトの概要について説明します。以降、EZChrom は、OpenLab CDS EZChrom Edition のことを指します。

2 OpenLab Control Panel

OpenLab Control Panel を使用すると、セキュリティポリシー、セントラルコンフィグレーション、またはラボステータス全体の表示などの OpenLab CDS Shared Services コントロール機能にアクセスできます。これらの機能について、この章で詳細に説明します。

3 OpenLab CDS Shared Services Server

この章では、OpenLab Server メンテナンスツールについて説明します。

4 EZChrom 特有の管理

この章では、AIC 管理のためのフェイルオーバー手順およびツールについて説明します。

5 付録

この章には、EZChrom で使用する権限についての情報および Agilent 以外のベンダーの機器のためのドライバライセンス機能についての情報が含まれています。

目次

1	はじめに	9
	対象読者	10
	インストール手順の概要	12
2	オペレーティングシステムの設定	16
	設定について	17
	セキュリティに関する注記	18
	Windows Server 2012 R2/2016 の設定	19
	Windows 10 の設定	23
	Windows 7 の設定	30
	エンタープライズパスの作成および設定	36
	Windows Server 上でフォルダーの作成および共有	36
3	ソフトウェアのインストール	38
	始める前に	39
	インストールの準備	42
	サードパーティツールのインストール	44
	Adobe PDF Reader のインストール	44
	.NET 4.7.1 のインストール	45
	システムコンフィグレーションチェッカーの実行	46
	OpenLab CDS Shared Services Server のインストール	48
	使用許諾契約書の画面	48
	インストールフォルダー画面	49
	Shared Services サーバーのインストールの種類画面	49
	OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークステーションのインストール	53

使用許諾契約書の画面	53	
インストールフォルダー画面	53	
インストールの種類画面	54	
サマリ画面	55	
ネットワークワークステーションのインストール後のタスク		56
OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントのインストール		57
使用許諾契約書の画面	57	
インストールフォルダー画面	58	
インストールの種類画面	58	
サマリ画面	60	
Agilent 機器コントローラ (AIC) のインストール		61
使用許諾契約書の画面	61	
インストールフォルダー画面	62	
インストールの種類画面	62	
サマリ画面	64	
ネットワークワークステーションのインストール(混合トポロジ)		65
スクリプト化インストール	66	
スクリプト化されたインストールについて		66
XMLとしてエクスポート	66	
パラメータおよびリターンコード		67
アンインストール	72	
ログおよびトレース	72	
追加ソフトウェアとドライバーのインストール		73
次の作業内容	74	
4 インストール後のタスク	75	
ウィルス対策プログラムの設定	76	
オペレーティングシステムでのプリントサーバーのセットアップ		78
AIC上：機器サービスを実行するドメインアカウントの識別		79

5	オプションの手順	80
	ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行	81
	AFS（拡張ファイルセキュリティ）のコンフィグレーション	81
	AFS（拡張ファイルセキュリティ）の有効化	82
	オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上	84
6	ライセンス	85
	OpenLab CDS ライセンスについて	86
	ライセンスタイプ	86
	ライセンスファイル	87
	ライセンスの取得	88
	SubscribeNet でのライセンスの取得	88
	ライセンスを入手するためのその他の方法	90
	ライセンスのインストール	92
	ライセンスサーバーの設定	92
	ライセンスのインストール	92
7	コントロールパネルでの OpenLab CDS の設定	94
	認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定	95
	セキュリティポリシーの設定	97
	ユーザー / グループ / ロールの設定	97
	ユーザーの作成またはインポート	98
	グループ	99
	ロールと権限	99
	個別機器に関する特定のロール	100
	初期プロジェクトの設定	101
	初期機器のコンフィグレーション	101
	OpenLab でのプリントサーバーのコンフィグレーション	103

8	新しいソフトウェアバージョンへのアップグレード	104
	アップグレードのプラン	105
	アップグレード中の下位互換性	105
	ネットワークまたは分散システムのアップグレードのワークフロー	106
	OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.07 SR2 以降からのアップグレード	106
	OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.07、A.04.06、A.04.05、A.04.04、またはA.04.03 からのアップグレード	107
	OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.02 または A.04.01 からのアップグレード	108
	ライセンスアップグレード	109
	Data Store Server/OpenLab Server のアップグレード	109
	OpenLab CDS Shared Services Server でのアップグレードウィザードの実行	110
	AIC、クライアント、またはネットワークワークステーションでのアップグレードウィザードの実行	111
9	ソフトウェアのアンインストール	113
	アンインストールについて	114
	CDS クライアントでのアンインストールウィザードの実行	115
	機器コントローラでのアンインストールウィザードの実行	116
	OpenLab Shared Services Server でのアンインストールウィザードの実行	117
	ネットワークワークステーションでのアンインストールウィザードの実行	118
10	付録	119
	SQL Server の認証を混合モードに変更	120
	営業およびサポートのお問い合わせ先	121



1 はじめに

この章では、OpenLab CDS EZChrom Edition ソフトウェアの概要を説明します。
また、インストールを開始する前の要件についても説明します。



対象読者

本インストールガイドでは、**OpenLab EZChrom Edition** のネットワークワークステーションまたは分散システムをインストールおよび設定する方法について説明しています。

その他のシステムコンフィグレーションインストールガイドについては **Agilent** またはその販売担当者にお問い合わせください。

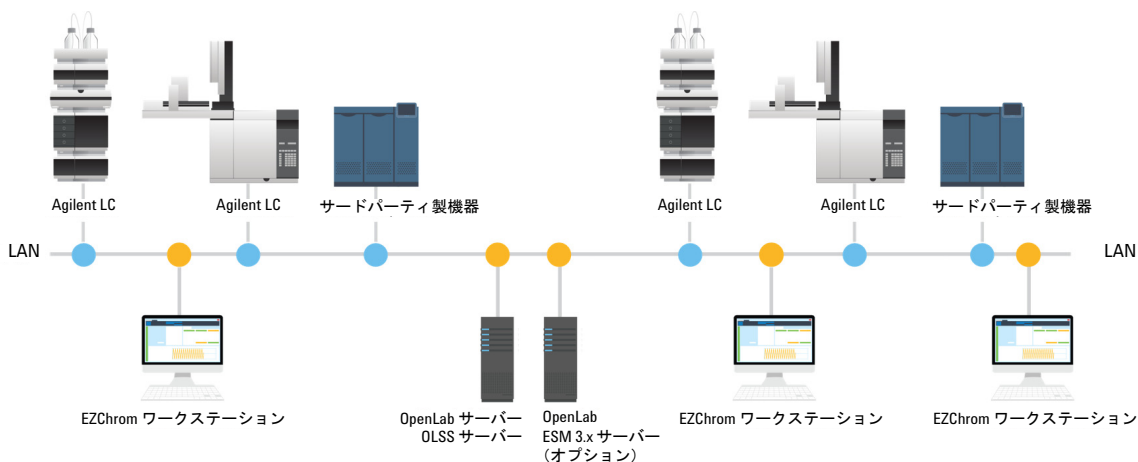


図1 ネットワークワークステーションの構成

1 はじめに 対象読者

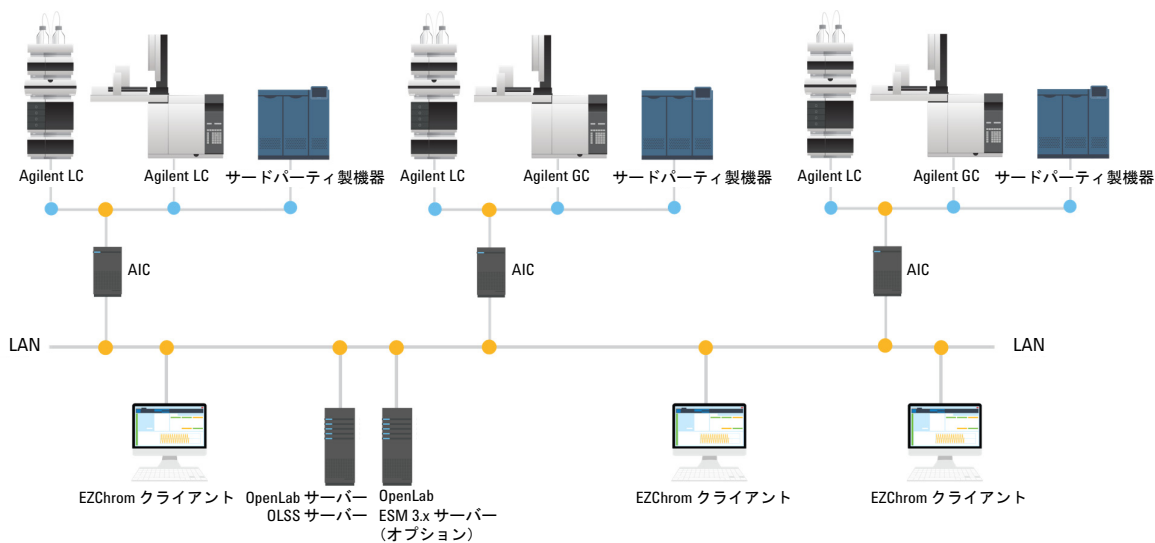


図2 分散システムの構成

Data Store/OpenLab Server をインストールすると、Shared Services コンポーネントと Content Management モジュールは同一サーバー上にインストールされます。

インストール手順の概要

この章では、ネットワークワークステーションまたは分散システムのインストールおよび設定のために必要な手順とオプションの手順の概要を説明します。アップグレード手順の詳細については、104 ページの「[新しいソフトウェアバージョンへのアップグレード](#)」を参照してください。

ネットワークワークステーション

以下の手順に従って、OpenLab CDS EZChrom Edition をネットワークシステムにインストールしてください。

前提条件

- OpenLab ECM :

OpenLab ECM サーバーへ接続する場合、このサーバーは先に準備されている必要があります。追加の OpenLab Shared Services Server は説明に従ってインストールしてください。

- Data Store/OpenLab Server :

Data Store/OpenLab Server へ接続する場合、このサーバーは先に準備されている必要があります。

Data Store/OpenLab Server には、OpenLab Shared Services Server コンポーネントがすでに含まれています。このため、追加の OpenLab Shared Services Server は不要です。

- OpenLab Shared Services 用データベース :

OpenLab Shared Services の使用するデータベースは、Oracle、Microsoft SQL Server、または PostgreSQL でホストできます。OpenLab Shared Services Server をインストールする前に、Oracle および Microsoft SQL Server をインストールしてください。PostgreSQL は OpenLab Shared Services Server と一緒にインストールされます。

- 1 Data Store/OpenLab Server なしの EZChrom Edition の場合 : OpenLab Shared Services サーバー上で次の設定をします。

19 ページの「[Windows Server 2012 R2/2016 の設定](#)」

- 2 36 ページの「[エンタープライズパスの作成および設定](#)」

1 はじめに

インストール手順の概要

- 3 ワークステーション PC 上の設定 :
23 ページの「[Windows 10 の設定](#)」
または、
30 ページの「[Windows 7 の設定](#)」
- 4 以下の手順はオプションです。
 - a 42 ページの「[指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする](#)」
 - b 46 ページの「[システムコンフィグレーションチェッカーの実行](#)」
- 5 44 ページの「[サードパーティツールのインストール](#)」
- 6 Data Store/OpenLab Server なしの EZChrom Edition の場合 : 48 ページの「[OpenLab CDS Shared Services Server のインストール](#)」
- 7 95 ページの「[認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定](#)」
この設定は、インストールが完了した後に実行することもできます。
- 8 53 ページの「[OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークステーションのインストール](#)」
インストール後 : 76 ページの「[ウイルス対策プログラムの設定](#)」

分散システム

以下の手順に従って、OpenLab CDS EZChrom Edition を分散システムにインストールしてください。

前提条件

- OpenLab ECM :

OpenLab ECM サーバーへ接続する場合、このサーバーは先に準備されている必要があります。追加の OpenLab Shared Services Server は説明に従ってインストールしてください。

- Data Store/OpenLab Server :

Data Store/OpenLab Server に接続する場合、このサーバーは先に準備されている必要があります。

Data Store/OpenLab Server には、OpenLab Shared Services Server コンポーネントがすでに含まれています。このため、追加の OpenLab Shared Services Server は不要です。

- OpenLab Shared Services 用データベース :

OpenLab Shared Services の使用するデータベースは、Oracle、Microsoft SQL Server、または PostgreSQL でホストできます。OpenLab Shared Services Server をインストールする前に、Oracle および Microsoft SQL Server をインストールしてください。PostgreSQL は OpenLab Shared Services Server と一緒にインストールされます。

- 1 Data Store/OpenLab Server なしの EZChrom Edition の場合 : OpenLab Shared Services サーバー上で次の設定をします。

19 ページの「[Windows Server 2012 R2/2016 の設定](#)」

- 2 36 ページの「[エンタープライズパスの作成および設定](#)」

- 3 AIC をコンフィグレーションします。

23 ページの「[Windows 10 の設定](#)」

または、

30 ページの「[Windows 7 の設定](#)」

または、

19 ページの「[Windows Server 2012 R2/2016 の設定](#)」

1 はじめに

インストール手順の概要

- 4 EZChrom クライアントをコンフィグレーションします。

23 ページの「[Windows 10 の設定](#)」

または、

30 ページの「[Windows 7 の設定](#)」

- 5 以下の手順はオプションです。

- a 42 ページの「[指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする](#)」

- b 46 ページの「[システムコンフィグレーションチェッカーの実行](#)」

- 6 44 ページの「[サードパーティツールのインストール](#)」

- 7 Data Store/OpenLab Server なしの EZChrom Edition の場合：48 ページの「[OpenLab CDS Shared Services Server のインストール](#)」

インストール後：

- 76 ページの「[ウイルス対策プログラムの設定](#)」

- 78 ページの「[オペレーティングシステムでのプリントサーバーのセットアップ](#)」

- 8 57 ページの「[OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントのインストール](#)」

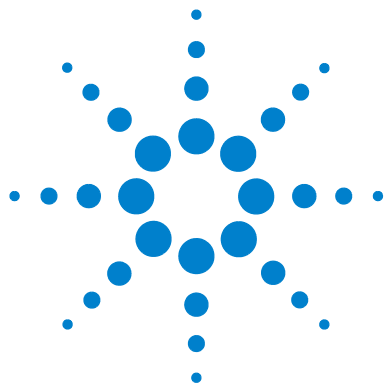
- 9 61 ページの「[Agilent 機器コントローラ \(AIC\) のインストール](#)」

インストール後：

- 79 ページの「[AIC 上：機器サービスを実行するドメインアカウントの識別](#)」

- 76 ページの「[ウイルス対策プログラムの設定](#)」

- 10 分散システムでは、AIC および EZChrom クライアントに加えてネットワークワークステーションもインストールして、混合トポロジを作成できます。分散システムでのネットワークワークステーションの詳細については、『*OpenLab CDS EZChrom Edition 管理者用ガイド*』を参照してください。



2 オペレーティングシステムの設定

この章では、ワークステーション、クライアント、および OpenLab CDS Shared Services サーバーの各オペレーティングシステムの設定について説明します。



設定について

本書の手順では、OpenLab CDS EZChrom Edition で使用する Agilent 以外の Windows システム設定の必要なすべてのパラメータについて説明します。

OpenLab CDS EZChrom Edition は、オペレーティングシステムの管理者ユーザーアカウントを使ってインストールする必要があります。ここでは、すべてのユーザーとパワーユーザーが同じ設定を使用することを前提にして、システムのオプションを設定する方法を説明します。

注記

Windows のユーザーアカウント制御 (UAC) をオンにしている場合は、設定の変更によっては、作業の続行を明示的に承認しなければならないことがあります。

注記

他のアプリケーションとの競合を避けて最適なパフォーマンスを得るために、すべてのサーバーベースの製品は専用サーバーにすることをお勧めします。

Windows システムで OpenLab CDS EZChrom Edition が正しく動作するには、この文書に記載されている設定に変更する必要があります。いくつかの変更は、アプリケーションのパフォーマンスを最適化するためものです。また、アプリケーションの画面表示に影響する変更や、その他の小さい変更があります。変更の重要性を区別するために、手順の説明に次のような印を付けています。

- 必須：この変更を必ず適用してください。
- パフォーマンス：この変更によってシステムのパフォーマンスが向上します。
- オプション：ほとんどは、アプリケーションの画面表示に影響する変更です。

セキュリティに関する注記

注記

コンピューターに適切なセキュリティ修正プログラムをインストールするまで、インターネットとの接続を切断しておいてください。ネットワークに接続する前に、Agilent Technologies がサポートしている最新のセキュリティ修正プログラムとウイルス定義ファイルをインストールすることをお勧めします。

- Microsoft のインストールメディアから、Windows をインストールします。セットアップ中に、コンピューター名と管理者のパスワードの指定とネットワークの設定を行います。システムを既存のドメインに参加させることも、ワークグループモードに設定することもできます。
- OpenLab Shared Services のサーバーでは、サーバーロールや機能をインストールまたは設定しないでください。
- システムへのウイルス感染を防ぐために、ウイルス対策プログラムをインストールします。『*OpenLab CDS EZChrom Edition 要件ガイド*』の「ファイアウォール設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウイルススキャナによっては、OpenLab CDS EZChrom Edition と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 12.x および Microsoft Security Essentials でテスト済みです。

Windows Server 2012 R2/2016 の設定

- 【必須】 1** **【システム】** (Microsoft コントロールパネル)* で、Windows をライセンス認証します。
- 【必須】 2** **フォルダーオプション** (Microsoft コントロールパネル) : **【表示】** タブで、
- **【常にメニューを表示する】** を有効にします。
 - **【登録されている拡張子は表示しない】** の選択を解除します。
 - **【タイトルバー完全なパスを表示する (クラシックフォルダーのみ)】** を有効にします。
- 【適用】** ボタンを選択してこれらの設定をすべてのフォルダーに適用します。
- 【必須】 3** ファイルエクスプローラー ([スタート] > **【エクスプローラー】**) へ移動)、**【表示】** リボンタブ :
- 【詳細】** レイアウトを選択します。
 - 【ナビゲーションウィンドウ】** の **【ナビゲーションウィンドウ】** を有効にします。
- 【必須】 4** **Windows Update** (Microsoft コントロールパネル) :
- 更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。
 - 【設定の変更】** をクリックします。**【重要な更新プログラム】** の選択を **【更新プログラムを確認しない】** に設定します。他の更新オプションの選択をすべて解除します。

注記

この設定は、システムが自動的に再起動されることで発生する問題を防ぐために必要です。

- 【必須】 5** **サービスの無効化** (Microsoft コントロールパネルの管理ツール) :
- 【サービス】** をダブルクリックします。
 - 【Application Experience】** サービスをダブルクリックします。スタートアップの種類を **【無効】** に設定します。

* すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

- [必須] 6 電源オプションの設定 (Microsoft コントロールパネル) :
- a 電源プラン [高パフォーマンス] ([追加プランの表示]) を有効にします。
 - b [プラン設定の変更] をクリックします。
 - c [詳細な電源設定の変更] をクリックします。
 - d [ハードディスク]、[次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る] の順にノードを開き、値が 0 ([なし]) に設定されていることを確認します。
- [必須] 7 ローカルセキュリティポリシー (Microsoft コントロールパネルの管理ツール)
- a [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション] の順に選択します。
 - b 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。
[ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル]
 - c 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。
[クラシック : ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する]
- [必須] 8 日付と時刻 (Microsoft コントロールパネル) : サーバーとクライアントを同じタイムゾーンを使用することをお勧めします。
- [必須] 9 ネットワークデバイスの電源管理 (Microsoft コントロールパネル) :
- a [アダプターの設定の変更] を選択します。
 - b [イーサネット] を右クリックし、[プロパティ] を選択します。
 - c [構成] をクリックします。
 - d [電源の管理] タブで、すべての項目をオフにします。
- [必須] 10 画面レイアウト (Microsoft コントロールパネル) :
- a [個人設定] をクリックします。
 - b [Windows ベーシック] が選択されていることを確認します。

2 オペレーティングシステムの設定

Windows Server 2012 R2/2016 の設定

- [必須]** 11 .NET 設定 (Microsoft コントロールパネルのプログラムと機能) :
- a **[Windows の機能の有効化または無効化]** をクリックします。
[サーバー マネージャー] が開き、[役割と機能の追加ウィザード] ダイアログが表示されます。
 - b **[サーバーの選択]** で該当するサーバーを選択します。
これにより **[機能]** ページが有効になります。
 - c **[機能]** ページで、**[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)]** チェックボックスをオンにして、.NET 3.5 を有効にします。
このオプションには、インターネット接続が必要です。

注記

コンピューターがインターネットにアクセスできないと、.NET Framework 3.5 はインストールされません。

- d すべての net.tcp コンポーネントが適切に初期化されるように、[非 Http アクティブ化] を有効にしてください。**[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)]** ノードを展開し、**[Windows Communication Foundation 非 HTTP アクティブ化]** チェックボックスを選択してください。

- [パフォーマンス]** 12 システムプロパティ (Microsoft コントロールパネル) : **[システムの詳細設定]** をクリックします。
- a **[詳細設定] タブの [パフォーマンス]** の下にある **[設定]** ボタンを押します。
 - **[視覚効果]** タブで、すべてのエントリをオフにします。
 - **[詳細設定] タブ > [仮想メモリ]** : 最適なパフォーマンスを得るには、**[変更]** ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2 ~ 3 倍に設定します。
 - **[データ実行防止] タブ** : **[重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする]** を有効にします。
 - b **[詳細設定] > [起動と回復] > [設定]** ボタンをクリックします。
 - **[起動システム] セクション** : **[... を表示する時間]** の両方を、**30 秒** から **3 秒** に変更します。

- [オプション]** 13 ごみ箱のプロパティ：(デスクトップにある [ごみ箱] アイコンを右クリックします)。次のオプションを有効にします。
- [カスタムサイズ] を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10% に設定します。
 - [削除の確認メッセージを表示する] をオンにします。
- 14 [地域] (Microsoft コントロールパネル)：Unicode に対応していないプログラムの言語：
- [管理] タブの [システムロケールの変更 ...] をクリックします。ドロップダウンリストから [日本語 (日本)] を選択します。

注記

英語、ポルトガル語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

Windows 10 の設定

- [必須] 1 [システム] (Microsoft コントロールパネル)* : Windows を Microsoft に登録します。
- [必須] 2 [エクスプローラのオプション] (Microsoft コントロールパネル) : [表示] タブで、
- [常にメニューを表示する] を選択します。
 - [タイトルバーに完全なパスを表示する] を選択します。
 - [登録されている拡張子は表示しない] の選択を解除します。
 - [共有ウィザードを使用する] の選択を解除します。
- [必須] 3 [スタート] > [設定] > [更新とセキュリティ] :
- a [更新プログラムのチェック] をクリックして更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。
続行する前に、すべての更新プログラムがダウンロードおよびインストールされていることを確認します。再起動が保留となっていないことを確認します。
 - b [詳細オプション] をクリックします。
 - c 機能更新を延期するを設定します。
 - d [更新プログラムの提供方法を選ぶ] をクリックします。
 - e [複数の場所から更新する] をオフにします。
- [必須] 4 更新プログラムの設定 : インストール時に **Windows 更新プログラム** サービスが実行されないようにしてください。
- [必須] 5 [インデックスのオプション] (Microsoft コントロールパネル) : インデックス作成を無効にします。
[変更] ボタンをクリックします。すべてのドライブの選択を解除します。

* すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

- [必須] 6 [スタート] > 「gpedit.msc」を検索 : Windows のログオンオプション
- a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。
 - b [ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示にする] と [常に従来のログオンを使う] を [有効] に設定します。
- [必須] の場合 7 [スタート] > [設定] > [システム] > [タブレットモード] : [サインイン時の動作] で、[デスクトップモードを使用します] を選択します。
- [必須] 8 [電源オプション] (Microsoft コントロールパネル) :
- a お気に入りのプランとして [高パフォーマンス] を選択します。
 - b [プラン設定の変更] をクリックします。
 - c [コンピューターをスリープ状態にする] オプションを [適用しない] に設定します。
 - d [詳細な電源設定の変更] をクリックします。
 - e [ハードディスク] > [次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る] の順にノードを開きます。
 - f 値を 0 (=なし) に設定します。
- [必須] 9 [スタート] > [設定] > [アプリ] > [オフラインマップ] : [従量制課金接続] および [マップの更新] をオフにします。
- [必須] 10 [管理ツール] (Microsoft コントロールパネル) : セキュリティポリシーを設定します。
- a [ローカルセキュリティポリシー] をダブルクリックします。
 - b [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション] の順に選択します。
 - c 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。
[ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティ モデル]
 - d 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。クラシック : ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する
- [必須] 11 [スタート] > [設定] > [システムとセキュリティ] :
- a [Windows SmartScreen 設定の変更] をクリックします。
 - b [何もしない (Windows SmartScreen を無効にする)] を選択します。

2 オペレーティングシステムの設定

Windows 10 の設定

- [必須]** 12 **[日付と時刻]** (Microsoft コントロールパネル) : コンピューターが設置されている場所のタイムゾーンを選択します。
- [必須]** 13 **[ネットワークと共有センター]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a **[アダプターの設定の変更]** を選択します。**[ローカルエリア接続]** を右クリックして **[プロパティ]** を選択し、**[構成]** をクリックします。
 - b **[電源の管理]** タブで、すべてのチェックボックスをオフにします。
- [必須]** 14 **[プログラムと機能]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a **[Windows の機能の有効化または無効化]** をクリックします。
 - b **[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)]** チェックボックスをオンにして、.NET 3.5 を有効にします。
このオプションには、インターネット接続が必要です。

注記

この手順が予想どおりに機能しない場合や、コンピューターがインターネットにアクセスできない場合は、Windows インストールメディアから .NET 3.5 をインストールしてください (詳細は <https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2734782> の Windows 10 を参照)。インストールメディアがない場合は、<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10> の説明に従って作成してください。

- c すべての net.tcp コンポーネントが適切に初期化されるように、**[非 Http アクティブ化]** を有効にしてください。**[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)]** ノードを展開し、**[Windows Communication Foundation 非 HTTP アクティブ化]** チェックボックスを選択してください。
 - d **[.NET Framework 4.6/4.7 Advanced Services]** チェックボックスをオンにします。サブアイテムに対してデフォルト値を使用します。
 - e **[Internet Explorer 11]** チェックボックスをオンにします。
 - f **[Telnet クライアント]** チェックボックスをオンにします。
 - g **[TFTP クライアント]** チェックボックスをオンにします。
 - h PC を再起動します。
- [必須]** 15 **[スタート] > [設定] > [アプリ] > [既定のアプリ]** : Internet Explorer を規定の Web ブラウザとして選択します。
Edge は使用しないでください。サポートされていません。Edge をタスクバーから外します。

- 【必須】 16** Internet Explorer の互換表示を無効にします。
- a Internet Explorer を開きます。
 - b [ツール] メニューの **【互換表示設定】** を選択します。
 - c **【イントラネットサイトを互換表示で表示する】** チェックボックスをオフにします。
- 【必須】 17** ナビゲーションウィンドウを有効にします。
- Windows Explorer を開き、リボンから **【表示】** > **【ナビゲーションウィンドウ】** を選択し、**【ナビゲーションウィンドウ】** が選択されていることを確認します。
- 【必須】 18** ビルトイン Administrator アカунトのための管理者承認モードを無効にします。
- a **【スタート】** 画面でローカルセキュリティポリシーと入力し、**ENTER** を押します。
 - b **【ローカルポリシー】** > **【セキュリティオプション】** の順に選択します。
 - c **【ユーザーアカウント制御：ビルトイン Administrator アカウントのための管理者承認モード】** ポリシーをダブルクリックします。
 - d **【無効】** を選択し、**【OK】** をクリックします。
- 【必須】 19** イントラネットのネットワークを自動的に検出します。
- a Internet Explorer を開きます。
 - b [ツール] メニューの **【インターネットオプション】** を選択します。
 - c **【セキュリティ】** タブの **【ローカルイントラネット】** を選択し、**【サイト】** をクリックします。
 - d **【イントラネットのネットワークを自動的に検出する】** を選択します。
 - e Windows 10 バージョン 1703 の場合、**【詳細】** をクリックします。
 - f EZChrom インストーラがマッピングされるネットワークパスを追加し、**【閉じる】** をクリックします。

2 オペレーティングシステムの設定

Windows 10 の設定

- [パフォーマンス] 20 [システム] (Microsoft コントロールパネル) : パフォーマンスオプションの変更 :
- [システムの詳細設定] をクリックします。
 - [詳細設定] タブの [パフォーマンス] の下にある [設定] をクリックします。
 - [視覚効果] タブで、[コンピューターに応じて最適なものを自動的に選択する] を選択します。
 - [カスタム] で、以下のチェックボックスをオンにして使いやすくします。
 - [スクリーンフォントの縁を滑らかにする]
 - [マウスポインターの下に影を表示する]
 - [ウィンドウの下に影を表示する]
- [パフォーマンス] 21 [スタート] > [設定] > [個人用設定] > [色] : [スタート、タスクバー、およびアクションセンターを透明にする] をオフにします。
- [パフォーマンス] 22 [システム] (Microsoft コントロールパネル) : システムプロパティの変更 :
- [システムの詳細設定] をクリックします。
 - [詳細設定] タブの [パフォーマンス] の下にある [設定] をクリックします。
 - [詳細設定] タブ > [仮想メモリ] : 最適なパフォーマンスを得るには、[変更] ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2 ~ 3 倍に設定します。可能であれば、システムインストールドライブとは別のドライブのページングファイルを指定してください。
 - [データ実行防止] タブ : [重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする] を選択します。
 - [詳細設定] > [起動と回復] > [設定] ボタンをクリックします。
 - [起動システム] セクション :
[... を表示する時間] の両方を、30 秒から 3 秒に変更します。
 - [システムエラー] セクションで次の操作を行います。
[自動的に再起動する] を選択し、[デバッグ情報の書き込み] セクションで、ドロップダウンリストから [カーネルメモリダンプ] を選択します。
 - [システムの保護] タブ

[保護] がオフになっていることを確認します。必要に応じて、[構成] をクリックし、[システムの保護を無効にする] を選択します。

- e [リモート] タブで次の操作を行います。
- [リモートアシスタンス] セクションの [このコンピューターへのリモートアシスタンス接続を許可する] チェックボックスをオフにします。
 - [リモートデスクトップ] セクションで、[このコンピューターへのリモート接続を許可しない] を選択します。

[オプション] 23 [スタート] > [設定] > [個人用設定] : 広告情報を無効にします。

- a [ロック画面] ページで :
- [背景] で [画像] または [スライドショー] を選択します。
 - [トリビアやヒントなどの情報をロック画面に表示する] をオフにします。
 - [サインイン画面にロック画面の背景画像を表示する] をオフにします。
- b [スタート] ページで :
- [ときどきスタート画面にお勧めを表示する] をオフにします。

[オプション] 24 [スタート] > [設定] > [プライバシー] :

- a [全般] タブで、以下をオフにします。
- アプリで自分の広告識別子を使うことを許可する。
 - SmartScreen フィルターをオンにして Web コンテンツを確認する。
 - 入力に関する情報を Microsoft に送信する。
- b [位置情報] ページで、[位置情報] をオフにします。

[オプション] 25 [スタート] > 「gpedit.msc」を検索 : ようこそ画面 :

- a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。
- b [ログオン時によろこそ画面を表示しない] を [有効] に設定します。

2 オペレーティングシステムの設定

Windows 10 の設定

- [オプション] 26 **ごみ箱のプロパティ** : (デスクトップにある **【ごみ箱】** アイコンを右クリックします)。以下のオプションを選択します。
- **【カスタムサイズ】** を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10 % に設定します。
 - **【削除の確認メッセージを表示する】** を選択します。
- 上記の手順をコンピューターのすべてのドライブで繰り返します。
- 27 **【地域】** (Microsoft コントロールパネル) : Unicode に対応していないプログラムの言語 :
- 【管理】** タブの **【システムロケールの変更 ...】** をクリックします。ドロップダウンリストから **【日本語 (日本)】** を選択します。

注記

英語、ポルトガル語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

- [オプション] 28 タスクバーを右クリックして、**設定** ダイアログを開きます。**【タスクバー】** タブで、**【タスクバーボタンを結合する】** の **【タスクバーに入りきらない場合】** を選択します。
- これにより、開いている CDS 間の切り替えが簡略化されます。

Windows 7 の設定

- [必須]** 1 **[システム]** (Microsoft コントロールパネル)* : Windows を Microsoft に登録します。
- [必須]** 2 **[フォルダーオプション]** (Microsoft コントロールパネル) : **[表示]** タブで、
- **[常にメニューを表示する]** を選択します。
 - **[タイトルバーに完全なパスを表示する]** を選択します。
 - **[登録されている拡張子は表示しない]** の選択を解除します。
 - **[共有ウィザードを使用する]** の選択を解除します。
- [必須]** 3 **[Windows Update]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a **[更新プログラムのチェック]** をクリックして更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。
- b **[設定の変更]** をクリックします。**[重要な更新プログラム]** セクションで **[更新プログラムを確認しない]** を選択します。他のオプションの選択をすべて解除します。

注記

この設定は、データ測定中にコンピューターが再起動され、データが失われるのを防ぐために必要です。

- [必須]** 4 **[管理ツール]** (Microsoft コントロールパネル) : サービスを無効にします。
- a **[サービス]** をダブルクリックします。
- b 以下のサービスをダブルクリックし、そのスタートアップの種類を **[無効]** に設定します。
- Application Experience
 - Desktop Window Manager Session Manager

* すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

2 オペレーティングシステムの設定

Windows 7 の設定

- [必須]** 5 **[管理ツール]** (Microsoft コントロールパネル) : セキュリティポリシーを設定します。
- a **[ローカルセキュリティポリシー]** をダブルクリックします。
 - b **[セキュリティの設定]** > **[ローカルポリシー]** > **[セキュリティオプション]** の順に選択します。
 - c 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。
[ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティ モデル]
 - d 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。**クラシック : ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する**
- [必須]** 6 **[インデックスのオプション]** (Microsoft コントロールパネル) : インデックス作成を無効にします。
- [変更]** ボタンをクリックします。すべてのドライブの選択を解除します。
- [必須]** 7 **[電源オプション]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a お気に入りのプランとして **[高パフォーマンス]** を選択します。
 - b **[プラン設定の変更]** をクリックします。
 - c **[コンピューターをスリープ状態にする]** オプションを **[なし]** に設定します。
 - d **[詳細な電源設定の変更]** をクリックします。
 - e **[ハードディスク]** > **[次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る]** の順にノードを開きます。
 - f 値を 0 (= なし) に設定します。
- [必須]** 8 地域と言語を設定します ([コントロールパネル] > [地域と言語] の順に選択します)。
- a 地域のオプションは、ドロップダウンリストから **[日本語 (日本)]** に設定してください。
 - b **[英語 (米国)]** 以外の地域の形式を使用している場合は、次の設定が必須です。この設定は、**[追加の設定 ...]** ボタンをクリックすることで定義できます。
 - 小数点の記号 = . (ピリオド)
 - 桁区切り記号 = , (コンマ)
 - 区切り記号 = , (コンマ)

- [必須]** 9 **[日付と時刻]** (Microsoft コントロールパネル) : コンピューターが設置されている場所のタイムゾーンを選択します。
- [必須]** 10 **[ネットワークと共有センター]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a **[アダプターの設定の変更]** を選択します。**[ローカルエリア接続]** を右クリックして **[プロパティ]** を選択し、**[構成]** をクリックします。
 - b **[電源の管理]** タブで、すべてのチェックボックスをオフにします。
- [必須]** 11 **[プログラムと機能]** (Microsoft コントロールパネル) : Non-Http Activation を有効にします。
- a **[Windows の機能の有効化または無効化]** をクリックします。
 - b **[Microsoft .NET Framework 3.5.1]** ノードを展開し、**[Windows Communication Foundation Non-HTTP Activation]** チェックボックスを選択してください。
 - c **[Internet Explorer 11]** チェックボックスをオンにします。
 - d **[Telnet クライアント]** チェックボックスをオンにします。
 - e **[TFTP クライアント]** チェックボックスをオンにします。
 - f PC を再起動します。
- [必須]** 12 Windows のログオンオプションを変更します (**[スタート]** をクリックして、gpedit.msc を検索します)。
- a **[ローカルコンピューターポリシー]** > **[コンピューターの構成]** > **[管理用テンプレート]** > **[システム]** > **[ログオン]** の順に選択します。
 - b **[ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示にする]** と **[常に従来のログオンを使う]** を **[有効]** に設定します。
- [必須]** 13 Internet Explorer の互換表示を無効にします。

注記

この手順は、OpenLab Content Management (旧称 OpenLab Data Store) を使用する場合のみ必要です。

- a Internet Explorer を開きます。
- b **[ツール]** メニューの **[互換表示設定]** を選択します。
- c **[イントラネットサイトを互換表示で表示する]** チェックボックスをオフにします。

2 オペレーティングシステムの設定

Windows 7 の設定

[必須] 14 ナビゲーションウィンドウを有効にします。

Windows Explorer を開き、**[整理]** > **[レイアウト]** を選択し、**[ナビゲーションウィンドウ]** が選択されていることを確認します。

[パフォーマンス] 15 **[システム]** (Microsoft コントロールパネル) : パフォーマンスオプションの変更 :

a **[システムの詳細設定]** をクリックします。

b **[詳細設定]** タブの **[パフォーマンス]** の下にある **[設定]** をクリックします。

c **[視覚効果]** タブで、**[コンピューターに応じて最適なものを自動的に選択する]** を選択します。

d **[カスタム]** で、以下のチェックボックスをオンにして使いやすくします。

- **[スクリーンフォントの縁を滑らかにする]**
- **[マウスポインターの下に影を表示する]**
- **[ウィンドウの下に影を表示する]**

[パフォーマンス] 16 **[システム]** (Microsoft コントロールパネル) : システムプロパティの変更 :

a **[システムの詳細設定]** をクリックします。

b **[詳細設定]** タブの **[パフォーマンス]** の下にある **[設定]** をクリックします。

- **[詳細設定]** タブ > **[仮想メモリ]** : 最適なパフォーマンスを得るには、**[変更]** ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2 ~ 3 倍に設定します。可能であれば、システムインストールドライブとは別のドライブのページングファイルを指定してください。

- **[データ実行防止]** タブ : **[重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする]** を選択します。

c **[詳細設定]** > **[起動と回復]** > **[設定]** ボタンをクリックします。

- **[起動システム]** セクション :

[... を表示する時間] の両方を、**30 秒** から **3 秒** に変更します。

- **[システムエラー]** セクションで次の操作を行います。

[自動的に再起動する] を選択し、**[デバッグ情報の書き込み]** セクションで、ドロップダウンリストから **[カーネルメモリダンプ]** を選択します。

d **【システムの保護】** タブ

【保護】 がオフになっていることを確認します。必要に応じて、**【構成】** をクリックし、**【システムの保護を無効にする】** を選択します。

e **【リモート】** タブで次の操作を行います。

- **【リモートアシスタンス】** セクションの **【このコンピューターへのリモートアシスタンス接続を許可する】** チェックボックスをオフにします。
- **【リモートデスクトップ】** セクションで、**【このコンピューターへの接続を許可しない】** を選択します。

【オプション】 17 画面の全般的なレイアウトを設定します（**【スタート】** を右クリックし、**【プロパティ】** をクリックします）。

a **【【スタート】メニュー】** タブ： **【プライバシー】** セクションで両方の項目を選択します。

b **【【スタート】メニュー】** タブの **【カスタマイズ】** ボタンを選択します。**【【スタート】メニューのカスタマイズ】** ダイアログボックスで、以下の手順を実行します。

次のオプションの選択を解除します。

- **【【お気に入り】メニュー】**

次のオプションを選択します。

- **【コンピューター】** の下の **【リンクとして表示する】**
- **【接続先】**
- **【コントロールパネル】** の下の **【メニューとして表示する】**
- **【既定のプログラム】**
- **【デバイスとプリンター】**
- **【ドキュメント】** の下の **【リンクとして表示する】**
- **【コンテキストメニューと【スタート】メニューへの項目のドラッグ/ドロップを有効化する】**
- **【ゲーム】** の下の **【この項目を表示しない】**
- **【ヘルプ】**
- **【新しくインストールされたプログラムを強調表示する】**
- **【ミュージック】** の下の **【この項目を表示しない】**
- **ネットワーク**

2 オペレーティングシステムの設定

Windows 7 の設定

- [マウスポインターを置いたときにサブメニューを開く]
- [個人用フォルダー] の下の [リンクとして表示する]
- [ピクチャ] の下の [リンクとして表示する]
- [[ファイル名を指定して実行] コマンド]
- [その他のファイルとライブラリを検索する] の下の [パブリックフォルダーも検索する]
- [プログラムおよびコントロールパネルを検索する]
- [[すべてのプログラム] メニューを名前で並べ替える]
- [システム管理ツール] の下の [[すべてのプログラム] メニューと [スタート] メニューに表示する]
- [大きいアイコンを使用する]

[オプション] 18 ようこそ画面の表示設定を変更します ([スタート] をクリックして、gpedit.msc を検索します)。

a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。

b [ログオン時によろこそ画面を表示しない] を [有効] に設定します。

[オプション] 19 ごみ箱のプロパティ：(デスクトップにある [ごみ箱] アイコンを右クリックします)。以下のオプションを選択します。

• [カスタムサイズ] を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10 % に設定します。

• [削除の確認メッセージを表示する] を選択します。

上記の手順をコンピューターのすべてのドライブで繰り返します。

[オプション] 20 [地域と言語] (Microsoft コントロールパネル)：Unicode に対応していないプログラムの言語：[管理] タブの [システムロケールの変更...] をクリックします。ドロップダウンリストから [日本語 (日本)] を選択します。

注記

英語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

エンタープライズパスの作成および設定

Windows Server 2008 バージョン では、ファイル共有用の新しいキャッシュおよび列挙子の機能が導入されました。これらの機能は OpenLab CDS EZChrom Edition ではサポートされていないため、共有エンタープライズパスで無効にする必要があります。

Windows Server 2008、2012、または 2016 オペレーティングシステムを使用して OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークまたは分散システムのエンタープライズパスをホストする場合、正常に動作するためには以下の手順が必要です。

Windows Server 上でフォルダーの作成および共有

- 1 共有フォルダーを作成します。例えば、D:¥ 共有 1 などとします。
- 2 新しく作成したフォルダーを右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
- 3 **[共有]** タブを選択します。
- 4 共有のアクセス許可を設定するには、**[詳細な共有]** ボタンをクリックします。
- 5 **[このフォルダーを共有する]** チェックボックスを選択します。
- 6 **[アクセス許可]** ボタンをクリックします。
- 7 フォルダーへの完全なアクセス許可を与えるには、グループ名フィールドで **[Everyone]** をクリックし、**[追加 ...]** ボタンをクリックします。

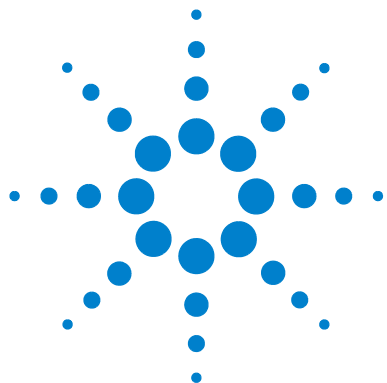
作成したフォルダーは共有されます。

Windows Server 上でエンタープライズパスの設定

準備

- ・ フォルダーを作成し共有します。
 - ・ AFS (拡張ファイルセキュリティ) は無効です。
- 1 現在の状態でエンタープライズパスを編集する場合、管理者権限を持つドメインユーザーのログイン資格情報で実行します。
 - 2 共有フォルダーをホストしているサーバーにログインします。
 - 3 管理ウィンドウを起動するには、**[スタート] > [管理ツール] > [サーバーマネージャー]** をクリックします。
 - 4 Windows Server 2012 R2/2016 :
 - a ナビゲーションウィンドウから **[ファイルサービスと記憶域サービス]** を選択し、**[共有]** をクリックします。
 - b 共有名、例えば **共有 1** を右クリックし、コンテキストメニューから **[プロパティ]** を選択します。
 - c ナビゲーションウィンドウの **[設定]** をクリックします。
 - d **[アクセス許可設定に基づいた列挙を有効にする]** チェックボックスをオフにします。
 - e **[共有のキャッシュを許可する]** チェックボックスをオフにします。
 - 5 Windows Server 2008 R2 SP1 :
 - a ナビゲーションウィンドウから、**[ロール] > [ファイルサービス] > [共有と記憶域の管理]** の順に選択します。
 - b 共有名、例えば **共有 1** を右クリックし、コンテキストメニューから **[プロパティ]** を選択します。
 - c **[共有]** タブの **[詳細]** ボタンをクリックします。
 - d **[アクセススペースの列挙子を有効にする]** チェックボックスをオフにします。
 - e **[キャッシュ]** タブで、**[共有にあるファイルやプログラムはオフラインで利用可能にしない]** を選択します。
 - 6 設定を保存します。

共有フォルダーをエンタープライズパスとして使用する準備が整いました。



3

ソフトウェアのインストール

この章では、サードパーティ製ツールの準備や、OpenLab Shared Services Server、ネットワークワークステーション、CDS クライアント、または Agilent 機器コントローラへの OpenLab CDS EZChrom Edition のインストールについて説明します。



始める前に

実際にソフトウェアインストールを開始する前に、このセクションをお読みください。特定の情報および設定手順を行う必要があります。

- 1 必要なすべてのマシンのコンピューター名を決めます。

OpenLab CDS EZChrom Edition のインストール後はコンピューター名を変更しないことをお勧めします。

AIC などのコンピューター名は、機器コンフィグレーションに反映されます。コンピューター名をインストール後に変更すると、コンフィグレーション作業が煩雑になります。

- 2 監査証跡の処理方法を決めます。

デフォルトでは、監査証跡は無効になっており、プロジェクトごとにマニュアルで有効にできます。インストールウィザードでは、すべてのプロジェクトに対して監査証跡を有効にする機能を提供しています。監査証跡を有効にすると、無効に戻すことはできません。

- 3 **OpenLab CDS EZChrom Edition** をインストールするには、すべてのサーバーおよびクライアントに対する管理者権限を持っている必要があります。パワーユーザー（Power Users）権限では不十分です（インストールを開始できません）。

- 4 データ、メソッド、シーケンス、コンフィグレーションなど、データシステムソフトウェアに関連するすべてのファイルを保存する **Shared Services** サーバーおよびディレクトリの場所を決めます。

- CDS クライアントはネットワーク経由で **Shared Services** サーバーに接続する必要があります。
- 中央データ記憶領域を使用する場合、CDS クライアントユーザーはリポジトリロケーションへの読み取り / 書き込みアクセス権限を持っている必要があります。
- 既存の Oracle DB サーバーを使用する場合、必ず **Disk1¥Docs¥ENU** の **CDS_oracle12.pdf** の説明に従って Oracle データベースを設定してください。既存の SQL サーバーを使用する場合、SQL サーバー認証を混合モードに変更してください（120 ページの「[SQL Server の認証を混合モードに変更](#)」を参照）。

デフォルトの PostgreSQL データベースを使用する場合、追加の設定は不要です。PostgreSQL は、OpenLab CDS EZChrom Edition インストーラでインストールされます。

- 5 OpenLab CDS EZChrom Edition をインストールする場合、ファイルサーバー上にエンタープライズパスフォルダーを作成し、共有ステータスを **[Everyone] > [フルコントロール]** にします (36 ページの「エンタープライズパスの作成および設定」を参照)。システムは統一された命名規則 (UNC) の共有パスとしてこのフォルダーにアクセスするため、実際にインストールする前にフォルダーを作成する必要があります。UNC パスは、共有フォルダーロケーションおよび取得のための共通構文パターンを定義します。
- 6 Shared Services データベースの場合、以下の情報を準備します。
 - データベース名
 - データベース管理者のユーザー名とパスワード
 - 認証モード
 - 管理者ユーザーの資格情報 (ドメイン、ユーザー名、パスワード)

Data Store/OpenLab Server を使用する場合、『*Agilent OpenLab Server インストールガイド*』を参照してください。
- 7 お使いのシステムで OpenLab ECM を使用する場合、ECM サーバー名を取得してください。
- 8 OpenLab ECM (サーバーでの Shared Services コンフィグレーション) をインストールおよび設定するには、インストールするユーザーは ECM 管理者および内部 OpenLab Shared Services 管理者の両方である必要があります。
- 9 Agilent 機器コントローラ (AIC) コンフィグレーション用のドメインユーザーのサービスアカウントを作成および定義します。最初の AIC をシステムにインストールした後で、このサービスアカウント情報を入力する必要があります。
- 10 ソフトウェアをインストールする方法を決めます。
 - DVD から直接インストールする場合 - ワークステーションのディスクドライブに、必要なディスクを直接読み込みます (推奨)。
 - 指定したロケーションにインストールファイルをコピーする - ユーティリティを使用してインストールファイルをネットワーク共有フォルダーや USB ドライブなどにコピーし、そのロケーションからインストールを実行することができます。ただし、ネットワークによってはインストールに支障をきたす場合があります。

3 ソフトウェアのインストール 始める前に

- 11 アプリケーションを起動し、ソフトウェアをインストールする前に、インストーラの **【プラン】** メニューで次の PDF ドキュメントを確認することができます。
 - *OpenLab CDS EZChrom Edition 要件* - この PDF を使用して、設定がネットワーク要件に準拠していることを確認し、ハードウェアとソフトウェアがシステムをサポートしているかどうかを確認できます。
 - *OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークワークステーションと分散システム* - いつでも利用できるように、このインストールガイドの電子コピー版が PDF 形式で提供されています。
- 12 システムを実行するために必要な電源、機器およびハードウェア接続を設定します。接続には、A/D ボード、ケーブル、 GPIB ボード、検出器、および通信ケーブルなどが含まれます。詳細な要件については、『*OpenLab CDS EZChrom Edition 要件ガイド*』を参照してください。
- 13 インストール時はウイルス対策ソフトウェアが無効になっているようにしてください。
- 14 インストール時にソフトウェアのアップグレードが実行されないようにしてください。
- 15 システムの再起動が保留となっていないことを確かめてください。
再起動の保留はサイトプレパレーションツールに示されます（46 ページの「[システムコンフィグレーションチェッカーの実行](#)」を参照）。

インストールの準備

サーバーコンピュータまたはネットワークワークステーションのインストール準備：

- 1 直接インストールする場合には、OpenLab CDS EZChrom Edition のインストールメディアを挿入します。
- 2 共有ファイルを使用する場合は、以下の説明に従って、指定したフォルダーにインストールファイルをすべてコピーします。
- 3 ポータブルデータ保存デバイスを使用する場合は、コンピューターの USB ポートに新しいデバイスを挿入します。

インストールを開始するには、Disk1¥Setup.bat へ移動します。ファイルを右クリックし、管理者として実行して **【プラン】** 画面に進みます。

指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする

この手順が完了すると、ネットワーク共有からインストールを実行できます。

- 1 マスターインストーラの **【プラン】** 画面で、サイドバーメニューから **【インストール】** を選択します。
- 2 **【ネットワーク共有からのインストール準備】** を選択します。
- 3 **【ネットワーク共有】** 画面で、ディレクトリに移動し、以下のように出力先フォルダーを作成します。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす可能性があるため、サポートしていません。

- a 3つのドットのあるボタンを選択します。
- b フォルダーを作成するディレクトリに移動します。
- c **【新しいフォルダーの作成】** を選択します。
- d フォルダー名を入力します。

3 ソフトウェアのインストール インストールの準備

- e **[OK]** を選択します。システムが **[ネットワーク共有]** 画面に戻り、パスが表示されます。
 - f インストール状況に応じて、フォルダーにコピーする内容を選択します。
 - g **[開始]** を選択します。
- 4 処理が完了したら、ファイルをローカルドライブにコピーするか、ネットワークドライブにロケーションを割り当てます。
 - 5 アプリケーションを閉じて、作成したディレクトリとフォルダーに移動します。フォルダーを開きます。
 - 6 Disk1 フォルダーを選択し、**Setup.bat** を実行してアプリケーションを起動します。
インストーラの **[プラン]** 画面が表示されます。

サードパーティツールのインストール

直接インストールすることが可能なツールは、**OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer** の **【インストール】** 画面に表示されます。

Adobe PDF Reader のインストール

以下を行うには、*Adobe Reader DC Classic* が必要です。

- サイトプレパレーションレポートや管理レポート（システムレポートなど）を表示する。
- **レポートビューアー**機能を使用する。
- ソフトウェアベリフィケーションレポートを表示する。

注記

古いバージョンの Acrobat Reader（11 以前）がシステムにインストールされている場合は、最初にアンインストールする必要があります。Adobe の更新によってバージョンが Acrobat Reader DC Continuous に上げられ、定期的に自動更新されるようになります。

Adobe Reader DC Classic をインストールする：

- 1 **【サードパーティツール】** の **【Adobe PDF Reader】** を選択します。
 - a Adobe Reader のセットアップ画面が表示されます。**【インストール】** をクリックして続行します。
 - b Adobe Reader が正常にインストールされたら、**【完了】** をクリックしてセットアップ画面を終了してください。

あるいは、OpenLab CDS EZChrom Edition インストールメディアから Adobe Reader をインストールすることができます。Disk1¥Tools¥Adobe Reader にあります。

AcroRdr2015_MUI.bat を実行し、Adobe Reader セットアップウィザードの説明に従います。

注記

Adobe PDF Reader をインストールメディアから直接インストールした場合：OpenLab CDS EZChrom Edition ユーザーが PDF ファイルを初めて開くと、Adobe Reader の使用許諾契約画面が表示されます。このダイアログボックスは、Adobe Reader を新しく設定するたびに表示されます。

3 ソフトウェアのインストール

サードパーティツールのインストール

.NET 4.7.1 のインストール

Windows 7 または Windows 10 の場合：システムに .NET 4.7.1 がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールが開始されます。ただし、Windows はインストールファイルへの書き込みを要求します。このため、DVD から直接インストールすることはできません。

- 1 フォルダー `Disk1¥Tools¥DotNet4.7` をローカルディスクにコピーします。
- 2 `dotNetFx47_Full_x86_x64.bat` を実行します。
- 3 インストールウィザードに従います。

注記

Microsoft .NET Framework 4.7.1（オフラインインストーラ）は、以下のオペレーティングシステムをサポートしています。Windows 7 SP1、Windows 8.1、Windows 10 Anniversary Update、Windows 10 Creators Update、Windows Server 2008 R2 SP1、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016。

システムコンフィグレーションチェッカーの実行

- 1 DVD または指定したフォルダーからマスターインストーラを実行します。
[プラン] 画面から、[システムコンフィグレーションチェッカー] を選択します。
- 2 [サイトプレパレーションツール] が開きます。ドロップダウンリストから、インストールする OpenLab CDS EZChrom Edition ソフトウェアの正しいエディションを選択します。
 - サーバーコンフィグレーションチェックの場合、[OpenLab CDS Shared Server Core A.02.XX] を選択します。
 - ネットワークワークステーション、CDS クライアント、または AIC をチェックする場合は、[OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.XX] を選択します。
- 3 [OK] を選択します。
- 4 1 ページ目の [Contact Information - System details] の空欄を入力します。
 - [System Location] フィールド
 - [System Information] フィールド
 - [Configuration] フィールド
- 5 システムの詳細を確認して、必要事項を入力します。システムは指定されたパスに従います。
- 6 画面の上部左隅の緑のチェックマークアイコンを選択して、システムチェックを開始します。サマリーレポートに、各チェックカテゴリの結果が表示されます。結果は、[Pass]、[Warning]、[Critical Warning] または [Fail] と表記されます。

結果が [Fail] となった場合、修正してからインストールを行ってください。
[Critical Warning] や [Warning] の場合も、続行する前にできる限り解決することをお勧めします。

注記

ファイアウォールがセキュリティソフトウェアに制御されている場合、セキュリティ上の制限により、サイトプレパレーションツールがファイアウォールの設定値を読み取ることができず、ファイアウォールの設定に関して「Fail」ステータスが表示されてしまいます。

この場合は、ファイアウォールが無効になっていることを確認し、サイトプレパレーションツールのレポートに手作業でステータスを入力してください。

3 ソフトウェアのインストール

システムコンフィグレーションチェッカーの実行

- 7 レポートの詳細を表示するには、次のリンクを選択してください: **[System Hardware Details]**、**[Operating System and Software Details]**、または **[Manual Verification Required]**。
- 8 レポートを保存するには、画面の上部左にある **[Save]** アイコンを選択します。
- 9 Agilent ソフトウェアシステムをインストールする PC を評価および検証するには、保存したレポートを電子メールで Agilent またはサービス関係者に送信してください。

OpenLab CDS Shared Services Server のインストール

注記

インストール中に異なるロケーションを選択した場合は、その情報を保存しておくことをお勧めします。その情報は、ハードウェアやソフトウェアの不具合によりシステムが操作不能になるという予期せぬ事態が発生した場合に、システムをリストアするときに必要です。

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS Shared Services データベースを Oracle データベース管理システムでホストする場合、必ず Disk1¥Docs¥ENU の CDS_oracle12.pdf の説明に従って Oracle データベースを設定してください。
- 2 OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer の画面から、**[インストール]** を選択します。
- 3 **OpenLab CDS EZChrom Edition** を選択します。
- 4 **[OpenLab CDS EZChrom Edition インストールウィザード]** が開きます。**[使用許諾契約書]** をお読みください。マスターインストーラ メインメニューの**[リソース]** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 5 **[規約に同意します]** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 6 **[次へ]** をクリックし、**[インストールフォルダー]** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダー名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリに移動します。フォルダー名は英語でなければなりません。

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こすことがあるため、サポートしていません。

- 2 Shared Services サーバーインストールの一部としてインストールの確認を実行するには、**[ソフトウェアベリフィケーションの実行]** を選択します。
ネットワークまたは分散システムは、複数のインストールがあるため、最後のインストール中またはシステムが完全にインストールされた後から、ソフトウェアベリフィケーションツールを実行することができます (74 ページの「次の作業内容」を参照)。
- 3 **[次へ]** をクリックし、**[インストールの種類]** 画面に進みます。

Shared Services サーバーのインストールの種類画面

- 1 **[インストールの種類]** 画面で、**[ネットワークシステム]** を選択します。
- 2 **[次へ]** をクリックし、**[ネットワークシステム]** 画面に進みます。
- 3 **Shared Services Server (w/o Content Management)** を選択します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 **[データベースタイプの選択]** 画面で、データベースタイプとインストールタイプを選択します。以下の手順に従ってデータベースを設定します。
- 6 PostgreSQL で**新規のデータベースサーバー**を選択した場合：
 - a パスを入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリに移動します。注：ディレクトリ名にスペースを使用することはできません。
 - b **[次へ]** をクリックして、**[OpenLab Shared Services データベース]** 画面に進みます。
 - c **[データベース名]** フィールドに入力します。
 - d 認証モードを選択します。
データベースのサーバー認証を使用する場合は、必要なユーザー資格情報を入力します。
 - e **[次へ]** をクリックし、**[追加項目]** 画面に進みます。

- 7 既存の **PostgreSQL** または **Microsoft SQL Server** データベースサーバーに接続している場合：
 - a 表示されたフィールドにデータベースサーバーの名前を入力します。
データベースが同一コンピュータ上にある場合は、データベースサーバー名として **localhost** を使用します。
 - b **Microsoft SQL Server** の場合、**【既定のインスタンスを使用】** または **【名前付きインスタンスを使用】** を選択します。
【名前付きインスタンスを使用】 を選択した場合は、**データベースインスタンス名** フィールドに名前を入力します。
 - c **【次へ】** をクリックして、**【OpenLab Shared Services データベース】** 画面に進みます。
 - d **【新規データベースの作成】** または **【既存のデータベースへ接続】** を選択します。
 - e 必要なデータベース名とユーザー資格情報を入力します。
 - f **【接続テスト】** をクリックして接続テストを行います。
テストが成功すると、システムに **【接続成功】** というメッセージが表示されます。**【OK】** をクリックしてメッセージを閉じます。
 - g **【次へ】** をクリックし、**【追加項目】** 画面に進みます。
- 8 既存の **Oracle** データベースサーバーに接続する場合：
 - a 表示されたフィールドにデータベースサーバーの名前を入力します。
 - b **【次へ】** をクリックし、**【サーバーの接続タイプ】** に進みます。
 - c **【データの初期化】** チェックボックスをオンにします。
 - d 必要なデータベース名、ユーザーの資格情報、およびリスナーのポート番号を入力します。デフォルトでは、リスナーのポート番号は **1521** です。
 - e **【接続テスト】** をクリックして接続テストを行います。
テストが成功すると、システムに **【接続成功】** というメッセージが表示されます。**【OK】** をクリックしてメッセージを閉じます。
 - f **【次へ】** をクリックし、**【追加項目】** 画面に進みます。

3 ソフトウェアのインストール

OpenLab CDS Shared Services Server のインストール

- 9 **【追加項目】** 画面で **【中央記憶領域なし】**、または **【ECM サーバー】** のいずれかを選択します。
 - a **ECM サーバー** を選択した場合は、**【サーバー名】** フィールドが有効になります。スペースを入れずにサーバー名を入力します。
 - b **【接続テスト】** をクリックして接続テストを行います。このマシンから ECM サーバーへの接続が機能していることが確認されます。

テストが成功すると、システムに **【接続成功】** というメッセージが表示されます。**【OK】** をクリックしてメッセージを閉じます。
- 10 **【OpenLab Shared Services 言語】** の下のドロップダウンリストから、正しい言語を選択します。
- 11 **【次へ】** をクリックし、**【サマリ】** 画面に進みます。

サマリ画面：サーバーソフトウェアのインストール

- 1 これまでの手順で選択したインストール設定を確認します。必要に応じ、**【戻る】** でインストールの設定を変更したり、**【キャンセル】** でインストールをキャンセルしたりすることができます。

注記

プリントサーバーも表示されます。プリントサーバーは自動的にインストールに含まれます。プリントサーバーは、測定および再解析中の印刷を管理します。キューフォルダーに PDF ファイルがないかモニターし、このファイルをプリンターに送信します。

- 2 **【開始】** を選択してインストールを開始します。
- 3 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。

【システムチェック合格】 というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。

【システムチェックで問題が発生しました】 というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを選択できます。

 - ・ システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
 - ・ システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
 - ・ システムレポートを確認し、インストールを続行する。
 - ・ システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、Adobe Reader がインストールされている必要があります (44 ページの「[Adobe PDF Reader のインストール](#)」を参照してください)。

- 4 インストールの一部としてインストールの確認を行う場合、[ソフトウェアベリフィケーションレポート] を選択します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 5 [次へ] をクリックし、[インストールした機能] 画面に進みます。
- 6 [完了] をクリックし、インストールを終了します。
- 7 インストール後にサーバーを再起動します。

サーバー上のインストール後のタスク

- 1 プログラムを設定します。76 ページの「[ウイルス対策プログラムの設定](#)」を参照してください。
- 2 プリントサーバーを設定します。78 ページの「[オペレーティングシステムでのプリントサーバーのセットアップ](#)」を参照してください。
- 3 OpenLab をコンフィグレーションします。

OpenLab CDS Shared Services をサーバーにインストールした後、認証プロバイダー、保存場所、およびセキュリティポリシーを設定できます。この設定は、ネットワークワークステーションあるいはクライアントのインストールが完了した後で実行することもできます。手順は同じです。95 ページの「[認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定](#)」および 97 ページの「[セキュリティポリシーの設定](#)」を参照してください。

OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークステーションのインストール

ここでは、Shared Services サーバーに関連付けるワークステーションのインストール手順を説明します。

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer の画面から、**【インストール】** を選択します。
- 2 **OpenLab CDS EZChrom Edition** を選択します。
- 3 **【OpenLab CDS EZChrom Edition インストールウィザード】** が開きます。**【使用許諾契約書】** をお読みください。マスターインストーラ メインメニューの**【リソース】** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 4 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 5 **【次へ】** をクリックし、**【インストールフォルダー】** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダ名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリに移動します。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす場合があるため、サポートしていません。

- 2 インストールの一部としてインストールの確認を実行するには、**【ソフトウェア検証の実行】** を選択します。Software Verification Tool では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。Software Verification Tool は、後日実行することもできます (81 ページの「ソフトウェアインストール後のソフトウェア検証の実行」を参照)。
- 3 **【次へ】** をクリックし、**【インストールの種類】** 画面に進みます。

インストールの種類画面

- 1 **【インストールの種類】** 画面で、**【ネットワークシステム】** を選択します。
- 2 **【ネットワークシステム】** 画面で **【ネットワークワークステーション】** を選択し、**【次へ】** をクリックします。
- 3 **【登録用の OpenLab Shared Services 設定】** 画面で、**【サーバー名】** に入力します。
 - a OpenLab Shared Services Server で設定した認証サービスプロバイダーを選択します。
 - b 対応するユーザー資格情報を入力します (95 ページの「[認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定](#)」を参照)。
- 4 **【次へ】** をクリックします。サーバーへの接続テストが実行されます。

接続テストに失敗したときは、サーバー名がスペースなしで正しく入力されているか確認し、**【次へ】** をクリックして再度テストを実行します。テストが正常に終了しない場合は、以下を試してください。

 - ・ 新しいサーバーを入力してテストを実行する。
 - ・ それでもサーバーに接続できない場合は、社内サポートに連絡してください。
- 5 **【OpenLab CDS EZChrom Edition】** 画面で、
 - a OpenLab CDS プリントサーバーをインストールする場合は、**【プリントサーバーのインストール】** チェックボックスを選択します。
 - b 有効なエンタープライズパスを ¥¥<ホスト名>¥¥<共有フォルダー名>¥¥<オブジェクト名>¥¥ の形式で入力します。エンタープライズパスは、OpenLab Shared Services Server のコンフィグレーションを行う際に準備されています (36 ページの「[エンタープライズパスの作成および設定](#)」を参照)。
 - c **【次へ】** をクリックし、**【追加項目】** 画面に進みます。

3 ソフトウェアのインストール

OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークステーションのインストール

- 6 **[追加項目]** 画面で、**[EZChrom エンタープライズパス]**、**[OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server]**、または **[ECM 3.x Server]** のいずれかを選択します。
 - a **[ECM 3.x Server]** を選択した場合は、**[サーバー名]** フィールドが有効になります。サーバー名を正しい構文でスペースを入れずに入力します。

注記

サーバー名の正しい構文は `http://servername` です。

- b **[接続テスト]** をクリックして接続テストを行います。このマシンから ECM サーバーへの接続が機能していることが確認されます。
テストが成功すると、システムに **[接続成功]** というメッセージが表示されます。**[OK]** をクリックしてメッセージを閉じます。
 - c **[次へ]** をクリックして、**[GATE (監査証跡) 設定]** 画面に進みます。
- 7 **[GATE (監査証跡) 設定]** 画面で、このネットワークワークステーションで監査証跡を自動的に有効にするかどうかを選択します。必要に応じて、**[すべての監査証跡を有効]** チェックボックスをオンにします。監査証跡オプションを有効にすると、無効に戻すことはできません。
- 8 **[次へ]** をクリックし、**[サマリ]** 画面に進みます。

サマリ画面

- 1 これまでの手順で選択したインストール設定を確認します。必要に応じ、**[戻る]** でインストールの設定を変更したり、**[キャンセル]** でインストールをキャンセルしたりすることができます。
- 2 インストールを開始またはキャンセルする前に、インストールの設定を記載した XML ファイルを保存することができます。この XML ファイルは、スクリプト化インストールに使用することができます (66 ページの「[スクリプト化されたインストールについて](#)」を参照)。
XML ファイルを保存するには、**[サマリ]** 画面のファイル記号をクリックします。
- 3 **[開始]** を選択してインストールを開始します。
- 4 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。
[システムチェック合格] というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。

[システムチェックで問題が発生しました] というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを選択できます。

- システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
- システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
- システムレポートを確認し、インストールを続行する。
- システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、Adobe Reader がインストールされている必要があります (44 ページの「[Adobe PDF Reader のインストール](#)」を参照してください)。

- 5 インストールの一部としてインストールの確認を行う場合、[ソフトウェアベリフィケーションレポート] を選択します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 6 [次へ] をクリックし、[インストールした機能] 画面に進みます。
- 7 [完了] をクリックし、インストールを終了します。

ネットワークワークステーションのインストール後のタスク

OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークワークステーションをインストールしたら、ウイルス対策プログラムを設定してください。76 ページの「[ウイルス対策プログラムの設定](#)」を参照してください。

OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントのインストール

ここでは、Shared Services サーバーに接続する EZChrom クライアントのインストール手順を説明します。

直接 DVD からインストールするか、指定したフォルダーからインストールを実行します。インストールウィザードを開始するまでのインストール手順は、全く同じです。指定したロケーションからインストールする場合、DVD を読み込むメッセージは表示されません。

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer の画面から、**【インストール】** を選択します。
- 2 **OpenLab CDS EZChrom Edition** を選択します。
- 3 **【OpenLab CDS EZChrom Edition インストールウィザード】** が開きます。**【使用許諾契約書】** をお読みください。マスターインストーラ メインメニューの**【リソース】** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 4 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 5 **【次へ】** をクリックし、**【インストールフォルダー】** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダ名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリに移動します。
- 2 **CDS クライアントインストールの一部としてインストールの確認**を実行するには、**【ソフトウェアベリフィケーションの実行】**を選択します。
分散システムは複数のインストールがあるため、最後のインストール中またはシステムが完全にインストールされた後から、ソフトウェアベリフィケーションツールを実行することができます（本書の 81 ページの「**ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行**」を参照）。
- 3 **【次へ】** をクリックし、**【インストールの種類】** 画面に進みます。

インストールの種類画面

- 1 **【インストールの種類】** 画面で、**【ネットワークシステム】** を選択します。
- 2 **【次へ】** をクリックし、**【ネットワークシステム】** 画面に進みます。
- 3 **【CDS クライアント】** を選択します。
- 4 **【次へ】** をクリックします。
- 5 **【登録用の OpenLab Shared Services 設定】** 画面で、**【サーバー名】** に入力します。
 - a OpenLab Shared Services Server で設定した認証サービスプロバイダーを選択します。
 - b 対応するユーザー資格情報を入力します（95 ページの「**認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定**」を参照）。
- 6 **【次へ】** をクリックします。サーバーへの接続テストが実行されます。
接続テストに失敗したときは、サーバー名がスペースなしで正しく入力されているか確認し、**【次へ】** をクリックして再度テストを実行します。テストが正常に終了しない場合は、以下を試してください。
 - 新しいサーバーを入力してテストを実行する。
 - それでもサーバーに接続できない場合は、社内サポートに連絡してください。

3 ソフトウェアのインストール

OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントのインストール

- 7 **[OpenLab EZChrom Edition]** 画面で、
 - a OpenLab CDS プリントサーバーをインストールする場合は、**[プリントサーバーのインストール]** チェックボックスを選択します。
 - b 有効なエンタープライズパスを ¥¥< ホスト名>¥¥< 共有フォルダー名>¥¥< オブジェクト名>¥¥ の形式で入力します。エンタープライズパスは、OpenLab Shared Services Server のコンフィグレーションを行う際に準備されています (36 ページの「[エンタープライズパスの作成および設定](#)」を参照)。
 - c **[次へ]** をクリックし、**[追加項目]** 画面に進みます。
- 8 **[追加項目]** 画面で、**[EZChrom エンタープライズパス]**、**[OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server]**、または **[ECM 3.x Server]** のいずれかを選択します。
 - **[ECM 3.x Server]** を選択した場合は、**[サーバー名]** フィールドが有効になります。スペースを入れずにサーバー名を入力します。
 - **[接続テスト]** をクリックして接続テストを行います。このマシンから ECM サーバーへの接続が機能していることが確認されます。
テストが成功すると、システムに **[接続成功]** というメッセージが表示されます。**[OK]** をクリックしてメッセージを閉じます。
- d **[次へ]** をクリックし、**[GATE (監査証跡) 設定]** 画面に進みます。
- 9 **[GATE (監査証跡) 設定]** 画面は、監査証跡を自動的に有効にするかどうかを選択します。必要に応じて、**[すべての監査証跡を有効]** チェックボックスをオンにします。

注記

分散システムでこの機能を有効にするには、すべての OpenLab CDS EZChrom クライアントおよび AIC にこの設定をインストールする必要があります。

監査証跡オプションを有効にすると、無効に戻すことはできません。

監査証跡の機能を無効にするには、インストールを実行するか、手順を再度修復し、GATE オプションのチェックを外します。

- 10 **[次へ]** をクリックし、**[サマリ]** 画面に進みます。

サマリ画面

- 1 これまでの手順で選択したインストール設定を確認します。必要に応じ、**[戻る]** でインストールの設定を変更したり、**[キャンセル]** でインストールをキャンセルしたりすることができます。
- 2 **[開始]** を選択してインストールを開始します。
- 3 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。
[システムチェック合格] というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。
[システムチェックで問題が発生しました] というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを選択できます。
 - ・ システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
 - ・ システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
 - ・ システムレポートを確認し、インストールを続行する。
 - ・ システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、**Adobe Reader** がインストールされている必要があります (44 ページの「[Adobe PDF Reader のインストール](#)」を参照してください)。

- 4 インストールの一部としてインストールの確認を行う場合、[ソフトウェアベリフィケーションレポート] を選択します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 5 **[次へ]** をクリックし、**[インストールした機能]** 画面に進みます。
- 6 **[完了]** をクリックし、インストールを終了します。

Agilent 機器コントローラ (AIC) のインストール

注記

AIC を Windows Server 2012 または Windows Server 2016 で実行する場合、管理権限を持つ Windows ドメインユーザーとしてログインして、OpenLab CDS EZChrom Edition をインストールしてください。

注記

Agilent 機器コントローラをインストールする前に、Windows でデフォルトの物理プリンターをコンフィグレーションしてください。

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer の画面から、**[インストール]** を選択します。
- 2 **OpenLab CDS EZChrom Edition** を選択します。
- 3 **[OpenLab CDS EZChrom Edition インストールウィザード]** が開きます。**[使用許諾契約書]** をお読みください。マスターインストーラ メインメニューの**[リソース]** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 4 **[規約に同意します]** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 5 **[次へ]** をクリックし、**[インストールフォルダー]** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダ名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリに移動します。
- 2 機器コントローラインストールの一部としてインストールの確認を実行するには、**【ソフトウェアベリフィケーションの実行】** を選択します。
分散システムは複数のインストールがあるため、最後のインストール中またはシステムが完全にインストールされた後から、ソフトウェアベリフィケーションツールを実行することができます (本書の 81 ページの「ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行」を参照)。
- 3 **【次へ】** をクリックし、**【インストールの種類】** 画面に進みます。

インストールの種類画面

- 1 **【インストールの種類】** 画面で、**【ネットワークシステム】** を選択します。
- 2 **【次へ】** をクリックします。
- 3 **【機器コントローラ】** を選択します。
- 4 **【次へ】** をクリックします。
- 5 **【登録用の OpenLab Shared Services 設定】** 画面で、**【サーバー名】** に入力します。
 - a OpenLab Shared Services Server で設定した認証サービスプロバイダーを選択します。
 - b 対応するユーザー資格情報を入力します (95 ページの「認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定」を参照)。
- 6 **【次へ】** をクリックします。サーバーへの接続テストが実行されます。
接続テストに失敗したときは、サーバー名がスペースなしで正しく入力されているか確認し、**【次へ】** をクリックして再度テストを実行します。テストが正常に終了しない場合は、以下を試してください。
 - ・ 新しいサーバーを入力してテストを実行する。
 - ・ それでもサーバーに接続できない場合は、社内サポートに連絡してください。

3 ソフトウェアのインストール

Agilent 機器コントローラ (AIC) のインストール

- 7 **[OpenLab CDS EZChrom]** 画面で、
 - a **[プリントサーバーのインストール]** チェックボックスは無効になっています。これらのコンポーネントのインストールは AIC ではサポートしていません。
 - b 有効なエンタープライズパスを ¥¥< ホスト名>¥¥< 共有フォルダー名>¥¥< オブジェクト名>¥¥ の形式で入力します。エンタープライズパスは、OpenLab CDS Shared Services Server のコンフィグレーションを行う際に準備されています (36 ページの「[エンタープライズパスの作成および設定](#)」を参照)。
 - c **[次へ]** をクリックし、**[追加項目]** 画面に進みます。
- 8 **[追加項目]** 画面で、**[EZChrom エンタープライズパス]**、**[OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server]**、または **[ECM 3.x Server]** のいずれかを選択します。
 - **[ECM 3.x Server]** を選択した場合は、**[サーバー名]** フィールドが有効になります。スペースを入れずにサーバー名を入力します。
 - **[接続テスト]** をクリックして接続テストを行います。このマシンから ECM サーバーへの接続が機能していることが確認されます。

テストが成功すると、システムに **[接続成功]** というメッセージが表示されます。**[OK]** をクリックしてメッセージを閉じます。
- e **[次へ]** をクリックし、**[GATE (監査証跡) 設定]** 画面に進みます。
- 9 **[GATE (監査証跡) 設定]** 画面は、監査証跡を自動的に有効にするかどうかを選択します。必要に応じて、**[すべての監査証跡を有効]** チェックボックスをオンにします。分散システムでこの機能を有効にするには、すべての *OpenLab CDS EZChrom* クライアントおよび AIC にこの設定をインストールする必要があります。

監査証跡オプションを有効にすると、無効に戻すことはできません。
- 10 **[次へ]** をクリックし、**[サマリ]** 画面に進みます。

サマリ画面

- 1 これまでの手順で選択したインストール設定を確認します。必要に応じ、**[戻る]** でインストールの設定を変更したり、**[キャンセル]** でインストールをキャンセルしたりすることができます。
- 2 **[開始]** を選択してインストールを開始します。
- 3 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。
[システムチェック合格] というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。
[システムチェックで問題が発生しました] というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを選択できます。
 - システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
 - システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
 - システムレポートを確認し、インストールを続行する。
 - システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、**Adobe Reader** がインストールされている必要があります (44 ページの「**Adobe PDF Reader のインストール**」を参照してください)。

- 4 インストールの一部として **Software Verification Tool** を完了した場合、[ソフトウェアベリフィケーションレポート] を確認します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 5 **[次へ]** をクリックし、**[インストールした機能]** 画面に進みます。
- 6 **[完了]** をクリックし、インストールを終了します。

プログラムの設定

OpenLab CDS EZChrom Edition をネットワークワークステーションにインストールしたら、ウイルス対策プログラムを設定してください。76 ページの「**ウイルス対策プログラムの設定**」を参照してください。

3 ソフトウェアのインストール

ネットワークワークステーションのインストール (混合トポロジ)

ネットワークワークステーションのインストール (混合トポロジ)

分散システムでは、AIC および OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントに加えてネットワークワークステーションもインストールすることができ、混合トポロジを作成できます。混合トポロジの詳細については、『*OpenLab CDS EZChrom Edition 管理者用ガイド*』を参照してください。

スクリプト化インストール

スクリプト化されたインストールについて

OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer では、スクリプト化インストールというコマンドラインモードのインストールをサポートしています。このモードでは、インストール、アップグレード、修復、アンインストールをサポートしています。スクリプト化インストールは、マニュアルで、または LANDesk や HP CM などのソフトウェア管理システムの一部として実行できます。対応するパラメータ (-q) を使用すると、スクリプト化インストールは自動で完了します。

XML としてエクスポート

マスターインストーラでは、インストールパラメータを XML ファイルとしてエクスポートし、スクリプト化インストールで使えるようにする機能をサポートしています。

この機能は、アップグレードおよび修復でもサポートされています。しかし、エクスポートしたインストール用 XML ファイルはこれらの用途には適しません。スクリプトでの修復やアップグレードでは、それぞれのマスターインストールウィザードを使用して、特定の XML ファイルを準備する必要があります。

- 1 OpenLab CDS EZChrom Edition インストールウィザードを起動します。
- 2 インストール手順に従います。
- 3 **[サマリ]** 画面に進んだ後、右上隅にあるアイコンをクリックして XML にインストールパラメータをエクスポートします。ファイルを物理ドライブに保存します。

注記

インストールファイルと XML ファイルを同一のファイルパスに保存しないでください。

これで、XML ファイルがスクリプト化インストールに使用できるようになります。

パラメータおよびリターンコード

パラメータ

以下のパラメータを使用して、コマンドラインモードで `Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe` を呼び出すことができます。

- *-i*
インストール、アップグレード
- *-r*
修復
- *-u*
アンインストール
- *-q*
サイレントモード - インストールまたはアンインストールウィザードを表示しません。
- *-reboot*

正常にインストール、修復、アップグレード、またはアンインストールされた後、自動で再起動します。システムは、リターンコードが **0** または **17** の場合に再起動します。

システムが再起動する **10** 分前に、コマンドプロンプトに警告メッセージが表示されます。さらに、再起動の **2** 分前に **Windows** のダイアログボックスが開きます。

- *KeepComponents*

アンインストールプロセス用オプションのパラメータで、システムに残すべき共有コンポーネントが 1 つ以上含まれている場合があります。このパラメータを使用しない場合、すべての EZChrom コンポーネントがシステムから削除されます。特定の共有コンポーネントを保存しておくには、下表で対応する ID を二重引用符 (") で囲みます。複数の項目はカンマで区切ります。

コンポーネント名	ID
Software Verification Tool	IQT
Microsoft SQL Server	SQLServer
IO Library	IOLibraries

- *ConfigurationXML="<ConfigurationXMLFilePath>"*

XML ファイルには、インストール、アップグレードまたは一部のトポロジの修復に必要な、マスターインストーラのすべての入力が含まれます (66 ページの「XML としてエクスポート」参照)。

<ConfigurationXMLFilePath> は、正しいファイルパスおよび XML ファイル名で置換してください。

注記

等しい(=)の記号の前後には、スペース(空白)を入力しないでください。スクリプトでのインストールやアンインストールモードが、期待通りに動作しなくなります。

3 ソフトウェアのインストール スクリプト化インストール

リターンコード

コマンドラインモードで、インストール、アンインストール、アップグレード、または修復を行うと、システムから次のような数値コードが返されます。

表 2 リターンコード

エラー / リターンコード	戻り値
Unknown (default)	-1
Success	0
CoreComponentFailure	1
NonCoreComponentFailure	2
TestConnectivityFailure	3
ExpectedWindowsInstallerNotInstalled (WI 4.5 missing)	4
ParameterMismatchError	5
CannotProceedWithFreshInstallation	6
CannotProceedWithUpgrade	7
CannotProceedWithUninstallation	8
CannotProceedWithRepair	9
CannotProceedWithReRegistration	10
ReRegistrationNotSupported	11
IncompleteTopologyFound	12
InvalidUNCPath	13
MissingInstallable	14
NotAStrongPassword	15
DowngradeNotSupported	16
RestartRequired	17
RegistryCleanupError	18
InvalidInputXML	19

表 2 リターンコード

エラー / リターンコード	戻り値
InvalidMode	20
SitePrepFailure	21
DatabaseConnectionFailed	22
DotNetFramework4NotInstalled	23
OLSSConnectionFailed	24
PDFReaderNotInstalled	25
AllComponentsInstallationFailed	26
SomeComponentsInstallationFailed	27
Failed	28
AddOnListEmpty	29
EULANotAccepted	30
ScriptedNotSupported	31

インストール、アップグレード、または修復

インストールモードでは、OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer は、.NET Framework がシステムにあるかどうかを確認します。システムにない場合は、自動的にインストールします。使用許諾契約書に同意する場合は、**[同意する]** を選択します。

マスターインストーラは、使用するシステムにインストールされている製品を確認します。インストール済みのコンポーネントに応じて、以下のいずれかのオプションが表示されます。

- 新規インストールを開始
- アップグレード
- 修復

必要なインストールファイルが見つからない場合、ログファイルにエントリが作成されます。コンポーネントのタイプに応じて、インストールは続行またはロールバックされます。このような状況では、対応するエラーコードが返されます。

準備

指定したフォルダーにすべてのインストールファイルがコピーされている必要があります (42 ページの「[指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする](#)」を参照)。スクリプト化インストールでは、この手順が必須です。

- 1 コマンドプロンプトまたは Power shell プロンプトの実行ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
管理者として開始した場合のみ、スクリプト化インストールに対するリターンコードが発行されます。
- 2 インストールファイルを保存したロケーションに移動します。

例：C:\CDS

- 3 インストールを開始するには、次の構文で Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe を呼び出します。

```
Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -i ConfigurationXML="<path to xml file>" -q -reboot
```

例：

```
Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -i  
ConfigurationXML="c:\settings\%ConfigurationXML.xml" -q -reboot
```

このコマンドでは、ユーザーインターフェイスを表示せずにインストールウィザードを起動し、自動的にシステムを再起動します。

アンインストール

- 1 コマンドプロンプトまたは **Power shell** プロンプトの実行ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
管理者として開始した場合のみ、スクリプト化アンインストールに対するリターンコードが発行されます。

- 2 インストールファイルを保存したロケーションに移動します。

例：C:\CDS

- 3 アンインストールを開始するには、次の構文で `Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe` を呼び出します。

`Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -u KeepComponents="< コンポーネントのリスト >" -q -reboot`

例：

`Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -u KeepComponents="IQT,IOLibraries" -q -reboot`

`KeepComponents` パラメータでは、システムに保存しておきたい共有コンポーネントを指定できます (67 ページの「[パラメータ](#)」を参照)。この例のコマンドでは、OpenLab CDS コンポーネントである `Software Verification Tool (IQT)` と `IO ライブラリ (IOLibraries)` が保存されます。

ログおよびトレース

すべての例外、エラー、情報メッセージが次の場所にログされます。

- インストール、アップグレードまたは修復中：< ベースインストールディレクトリ >%Logs
- アンインストール中：< ユーザーのテンポラリディレクトリ >%< 会社名 >%Logs< ログフォルダ >%< ウィザード名 >.txt

追加ソフトウェアとドライバーのインストール

OpenLab CDS EZChrom Edition には、追加ソフトウェア（サードパーティ製の機器用のドライバーなど）のインストールを支援するウィザードが用意されています。このウィザードを開始するには、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] > [OpenLab 追加ソフトウェアとドライバー]** を選択します。ウィザードの指示に従って、必要なソフトウェアをインストールします。

ネットワークドライブの準備

追加ソフトウェアがネットワークドライブ上に置かれている場合は、ウィザードがそこにアクセスできるようにネットワークドライブを準備する必要があります。この準備を行わなければ、ウィザードの該当ドライブへのアクセスは Windows のセキュリティ機能により拒否されます。

- 1 ドライブにドライブ文字を割り当てます。

例えば、"**¥¥<machine-name>¥OpenLabCDS**" という共有パスを使用して、ドライブに **Z:** を割り当てます。

これにより、ログインしているユーザーに対してドライブの割り当てが行われます。

- 2 コマンドプロンプトを管理者モードで開き（管理者として実行し）、**net use** コマンドでドライブを割り当てます。

たとえば、

net use z: "¥¥<マシン名>¥OpenLabCDS" などと入力します。

これにより、ローカル管理者アカウントに対してドライブの割り当てが行われます。割り当てられたドライブが、ログインユーザーと管理者の両方で表示され、ウィザード内で選択できるようになります。

サードパーティ製の機器をコンフィグレーションする

EZChrom エディションでのサードパーティ製機器のコンフィグレーションの詳細については、各ドライバーのドキュメントを参照してください。

次の作業内容

ここまでのステップで、データシステムソフトウェアの基本インストールは完了しました。

このシステムには *60 日間* のスタートアップライセンスがあり、期限の開始日はインストールした日付となります。

ファイナルソフトウェアライセンスをリクエストおよびダウンロードします。システムにライセンスファイルを追加する方法については、このガイドの「*ライセンス*」を参照してください。

ファイナルソフトウェアライセンスを取得およびインストール後に、プロジェクト、ユーザー、および機器のコンフィグレーションを行い、エンドユーザーが操作できるようにデータシステムを準備します。これらはすべて *OpenLab CDS Control Panel* から操作できます。このガイドの「*コントロールパネルでの OpenLab CDS の設定*」を参照してください。



4 インストール後のタスク

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。



ウイルス対策プログラムの設定

『OpenLab CDS EZChrom Edition 要件ガイド』の「ファイアウォール設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウイルススキャナによっては、OpenLab CDS と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 12.x および Microsoft Security Essentials でテスト済みです。

注記

Symantec Endpoint Protection では、Aggressive Scan Mode を使用しないでください。ウイルスが誤検出される場合があります。

OpenLab ソフトウェアが正しく機能するには、ウイルス対策ソフトウェアによるリアルタイム保護から、以下のフォルダーを除外する必要があります。これらのフォルダーは、機器が待機状態で、データを測定していない間だけスキャンされるようにする必要があります。除外するフォルダーの設定方法は、使用しているウイルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

- データを保存するために使用するパス
- C:\programdata\chromatography system\recovery data
- C:\programdata\agilent
- %programfiles%\agilent
- %programfiles(x86)%\agilent
- %programfiles%\common files\agilent
- %programfiles(x86)%\common files\agilent
- %programfiles%\agilent technologies
- %programfiles(x86)%\agilent technologies
- %programfiles%\common files\agilent technologies
- %programfiles(x86)%\common files\agilent technologies
- %programfiles%\common files\agilent shared
- %programfiles(x86)%\common files\agilent shared

4 インストール後のタスク

ウイルス対策プログラムの設定

プロセス	ディレクトリ	ファイル名
ECMによるアップロードとダウンロード (該当する場合)	Windows ユーザーの場合は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	*.sszip
標準レポート	Windows ユーザーの場合は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	~p3d*.tmp ~job*.tmp Hpspl00.que
CDS インテリジェント レポート	%LOCALAPPDATA% %APPDATA% %PROGRAMDATA%	次のファイル： • Agilent • Agilent Technologies • Agilent_Technologies_Inc • IsolatedStorage • TEMP 例：C:\Users\¥xxxxx¥ AppData\Local¥ Agilent Technologies¥Intelligent Reporting¥ RawDataFileCache

使用するウイルス対策ソフトウェアに、プログラムや実行可能ファイルの実行を禁止する設定がある場合は、次のプログラムファイルの実行禁止を設定していないことを確認してください。これらのプログラムファイルが格納されているフォルダーを見つけるには、Windows の検索機能を使ってください。

- agilentolibrariesservice.exe
- apg_top.exe
- iprocsvr.exe
- iproc8491.exe
- msinsctl.exe
- httpdmsd.exe
- epcsetup.exe

注記

システムの設定によっては、上記のフォルダーやファイルが存在しない場合があります。

オペレーティングシステムでのプリントサーバーのセットアップ

OpenLab CDS Shared Services Server :

- 1 **[サービス]** の **[Agilent OpenLab CDS Print Server]** を参照します。
- 2 **[ログオン]** ユーザーを、プリンターへのアクセス権を持つユーザーに変更します。
- 3 **[サービス]** で **[Agilent OpenLab CDS Print Server]** にログインしたユーザーとしてオペレーティングシステムにログインします。
- 4 このユーザーとしてログインしている間にプリンターをサーバーにインストールします。
- 5 キューフォルダーを作成します。このフォルダーは共有する必要があります。**[Agilent OpenLab CDS Print Server]** サービスにログインしたユーザーは、このロケーションへのフルアクセス権を持っている必要があります。これは、プリンターサーバーが PDF ファイルをモニターするフォルダーです。すべてのプリンターに独自のキューフォルダーを持つように設定してください。

注記

各キューフォルダー内には *quarantine* フォルダーがあり、プリンターへの接続に失敗した場合、この *quarantine* フォルダーに印刷ジョブが追加されます。プリンターへの接続が回復したら、印刷ジョブをマニュアルでコピーしてキューフォルダーに戻します。デフォルトでは、ファイルは *quarantine* フォルダーから 24 時間後に削除されます。

4 インストール後のタスク

AIC 上：機器サービスを実行するドメインアカウントの 識別

AIC 上：機器サービスを実行するドメインアカウントの 識別

- 最初の AIC 上での操作 -

上記の手順で最初の機器コントローラをインストールした後に、EZChrom Edition に対して以下の手順を実施する必要があります。

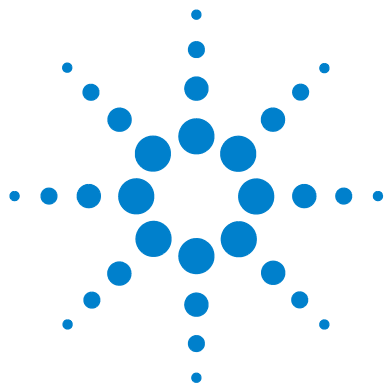
- 1 [スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [OpenLab CDS EZChrom Edition] > [AIC とドライバーインストールツール] の順に移動します。
- 2 [OpenLab Shared Services EZChrom - Registration] 画面に表示される以下のフィールドに **Username**、**Password**、および **Domain** を入力します。
- 3 [Register AIC] を選択します。
- 4 [OpenLab Shared Services EZChrom - Registration] 画面で、[Instrument Service Account] タブを選択します。
- 5 表示されたフィールドに、以下のサービスアカウントの資格情報を入力します。
 - ユーザー名
 - パスワード (有効期限のないパスワードを推奨します。パスワード変更の詳細については、『OpenLab CDS 管理ガイド』を参照してください。)
 - ドメインこのサービスアカウントに指定するユーザーは、すべての AIC でローカル管理者として設定されていなければなりません。
このユーザーはエンタープライズパスにアクセスする権限を持っている必要があります。

注記

Instrument Service Account がサポートできる AIC は、Microsoft の制限のため最大 64 台となっています。

- 6 [Store] を選択します。
- 7 ツールを閉じます。

この時点からは、ネットワークサーバーおよび機器に関連付けられた任意の数の追加機器コントローラにソフトウェアをインストールできます。上記の手順は省略でき、ドメインアカウント情報が自動的に取得されます。



5 オプションの手順

この章では、OpenLab Data Analysis をアドオンとして、あるいはスタンドアロンアプリケーションとしてインストールする方法について説明します。ファイルセキュリティ、Software Verification Tool、およびパフォーマンス向上に関する情報も記載しています。



ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行

Software Verification Tool (SVT) では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。

1 Windows オペレーティングシステムを使用して、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [Software Verification Tool]** を選択します。

2 **[Qualify]** を選択します。

アプリケーションが実行され、ソフトウェアベリフィケーションレポートが作成されます。

3 レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。

ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。

AFS（拡張ファイルセキュリティ）のコンフィグレーション

AFS は、OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークシステム用のコンフィグレーションオプションです。データシステム外部でプロジェクトデータへの無許可のアクセスを防止するために、エンタープライズパス上に強化されたセキュリティを提供します。この構成では、適切な Windows 共有およびセキュリティ設定を行い、定義されたグループのみが Windows Explorer からエンタープライズデータにアクセスできるようにします。また、Shared Services 認証プロバイダーとして Windows ドメインを使用するようシステムが設定されている場合にのみ行えます。

AFS (拡張ファイルセキュリティ) の有効化

- 1 システムを準備します。
 - a Windows ドメインを認証プロバイダーとして使用するようシステムが設定されていることを確認します。(オンラインヘルプの **[セキュリティおよびストレージの設定]** > **[認証プロバイダーおよび保存システムの設定]** を参照。)
 - b 定義済みのエンタープライズパスの直下にあるストレージパスを使用するようシステムが設定されていることを確認します。
 - c データシステム外部のエンタープライズパスへのアクセス権を持つ Windows ドメイングループを作成または定義します。
 - d 上記のグループのメンバーであるユーザーを最低 2 人定義します。

注記

有効期限のないパスワードを推奨します。実行中のシステムでのパスワード変更の詳細については、『OpenLab CDS 管理者用ガイド』の「EZChrom の管理」の章を参照してください。

- e **[ローカルセキュリティポリシー]** > **[ローカルポリシー]** > **[ユーザー権限の割り当て]** で、ユーザーまたはグループに以下の権限を割り当てます。
 - **オペレーティングシステムの一部として機能**
 - **ローカルログオンを許可**
 - f OpenLab CDS システムへのすべての接続を終了します (クライアント、機器実行、コントロールパネル)。
 - g 現在の状態でエンタープライズパスを編集する管理者権限を持つドメインユーザーのログイン資格情報を取得します。
 - h ドメイン認証の設定時に定義された、OpenLab Control Panel の管理者ログイン資格情報を取得します。
- 2 OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントで、ソフトウェアがインストールされたディレクトリに移動します。
(デフォルト : C:\Program Files\Agilent Technologies\EZChrom)
 - 3 EnterpriseConfig.exe を起動します。

5 オプションの手順

AFS (拡張ファイルセキュリティ) のコンフィグレーション

- 4 [エンタープライズ設定ログイン] ダイアログが表示されます。
 - a **OpenLab Control Panel ログイン** セクションで、OpenLab Control Panel 管理者のユーザー名、パスワード、およびドメインを入力します。
 - b [Windows ユーザー情報] セクションで、エンタープライズパスの編集権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - ドメインユーザーアカウントの場合、**Windows ドメインコントローラ** を選択し、ドメイン名を入力します (推奨)。
 - ローカル PC アカウントの場合は、**Windows ローカル PC** を選択します。これは、EnterpriseConfig.exe プログラムが実行中のマシンのローカルアカウントにしてください。
 - c [OK] をクリックします。
- 5 システムが上記の資格情報を処理します。資格情報が有効な場合、警告が表示され、この処理が完了したら取り消すことはできないことが伝えられます。

続行する準備が完了している場合、[OK] をクリックします。
- 6 [エンタープライズ サービスアカウント] ダイアログが表示されます。
 - a AFS グループのメンバーとして定義するユーザーのユーザー名、パスワード、およびドメインを入力します。
 - b AFS の制約下でエンタープライズパスへのアクセス権を持つグループ名を入力します。
 - c [OK] をクリックします。

オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上

OpenLab CDS EZChrom Edition を実行するコンピューターは、インターネットに接続されていないとパフォーマンスが低下する場合があります。

Windows オペレーティングシステムには、セキュアソフトウェアの使用時に Windows セキュリティ証明書をすべて更新するために、常にオンライン接続を検索するルーチンが組み込まれています。

この問題を解決するには、すべてのワークステーション、クライアント、AIC、およびサーバー上で以下のシステム設定を使用してください。

1 Internet Explorer を開き、[ツール] > [インターネットオプション] を選択します。[詳細設定] タブで、以下のチェックボックスをオフにします。

- [セキュリティ] > [発行元証明書の取り消しを確認する]
- [セキュリティ] > [サーバーの証明書失効を確認する]

2 Windows 10 を除くすべての Windows システムで、以下のレジストリキーを変更します。

- 32 ビットおよび 64 ビットシステム :

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Policies¥Microsoft¥SystemCertificates¥AuthRoot]
```

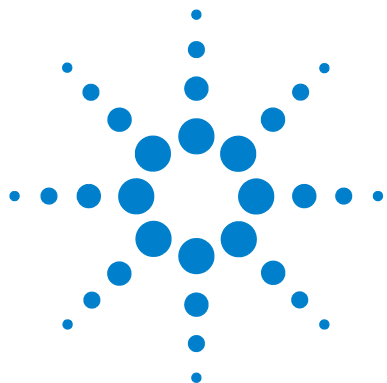
```
"DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
```

- 64 ビットシステム :

```
[HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Wow6432Node¥Policies¥Microsoft¥SystemCertificates¥AuthRoot]
```

```
"DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
```

3 ルート証明書をオフにしたことを記録します。これによりユーザーが他のアプリケーションをインストールするのを防止します。



6 ライセンス

この章では、ライセンスを取得してインストールする方法について説明します。



OpenLab CDS ライセンスについて

ライセンスタイプ

ライセンスファイルは、製品、機器およびアドオンのライセンス（またはアクティベーションキー）のコレクションであり、OpenLab CDS システムにインストールされます。OpenLab ワークステーション PC、またはクライアント / サーバーシステムの OpenLab Server の両方がライセンスサーバーとして機能します。

ライセンスファイル内のライセンスまたはアクティベーションキーは、共有またはカウントのいずれかになります。

- 共有ライセンス – システムコンピューターおよびその他のコンポーネントでは、共有、またはアドオンライセンスを使用できます。– これは、コアライセンスを共有しているためです。
- カウントライセンス – このライセンスは、OpenLab CDS EZChrom Edition のフローティングライセンス方針の一部であり、どのコンポーネントにも恒久的に割り当てられるものではありません。その代わりに、AIC および機器などのコンポーネントが起動している間、これらに自動的に割り当てられます。このライセンスは、コンポーネントが終了するときに自動的に返却されます。ライセンス管理プログラムでは、ライセンスの発行や取得を管理します。

この場合は、コンポーネントが実行中にのみライセンスが使用されます。インストールする各コンポーネントにではなく、同時に実行するすべてのコンポーネントに十分な数だけのライセンスを購入すればよいことになります。

システムのスタートアップライセンスでは、インストール後 60 日間 OpenLab CDS を実行できます。60 日の期間以降にデータシステムソフトウェアを実行するためには、コアライセンスファイルをインストールする必要があります。

ライセンスファイル

ライセンスファイルには、ソフトウェアライセンスが含まれます。このファイルをワークステーションにインストールします。ライセンスファイルはこのコンピュータに固定されており、**SubscribeNet** でライセンスを再作成せずに別のワークステーションに移動することはできません。

ライセンスファイルの情報によって、お使いのシステムで同時に使用可能な機器およびその他のオプションの数が定義されます。

ライセンスを維持管理する最も効率的な方法は、インターネットを使用することです。製品用のファイナルライセンスの作成、ダウンロードおよびインストールを行うには、以下が必要です。

- **Software Entitlement Certificate** が入った薄紫色の封筒で提供される認証コードラベル。
- **Software Entitlement Certificate** に記載されている **SubscribeNet** の URL。

製品用に薄紫色の封筒を受け取っていない場合、販売店または弊社のサポート窓口にお問い合わせください。

ライセンスの取得

SubscribeNet でのライセンスの取得

インターネットにアクセスできる場合、次の手順で OpenLab CDS システム用のライセンスを作成し、ダウンロードしてください。

インターネットにアクセスできない場合は、90 ページの「[ライセンスを入手するためのその他の方法](#)」のセクションを参照してください。

SubscribeNet にまだ登録のないユーザーは、[[新規ユーザー](#)] セクションに従ってください。

SubscribeNet に登録済みのユーザーは、[[SubscribeNet で登録済みのユーザー](#)] セクションを参照してください。

新規ユーザー

- 1 インターネットにアクセスできるコンピュータで、**Software Entitlement Certificate** に記載された URL をインターネットブラウザに入力します。
- 2 ログインページの一番下にある [**click here to register**] をクリックします。
- 3 登録ページでは、[**Authorization Code**] と [**Profile Information**] を入力します（必須入力のフィールドにはアスタリスク (*) の印が付いています）。ここで入力する電子メールアドレスが、ログイン ID になります。
- 4 [**Submit**] をクリックします。アカウント名が作成されると、それが表示されます。

SubscribeNet からお客様に、ログイン ID とパスワードが記載された「ようこそ」電子メールが送信されます。

- 5 ログイン ID とパスワードで SubscribeNet にログインします。
ログインすると、オンラインのユーザーマニュアルリンクを使用して、質問などに対するヘルプにアクセスすることができます。
- 6 左側のナビゲーションバーから、[**Generate or View licenses**] を選択します。

6 ライセンス ライセンスの取得

- 7 新規にライセンスを作成するメッセージが表示されたらそれに従います。
- コンピューターの **HOST NAME** (ホスト名) を入力するよう要求されます。入力するホスト名は、コントロールパネルが実行されているコンピューターのネットワーク名と同一にする必要があります。ホスト名には、DNS サフィックス (*domain.com*) リファレンスを含めないでください。
- 作業中に、ライセンスサーバーの **MAC** アドレスを入力する必要があります。ワークステーションの場合は、ローカルコンピューターの **MAC** アドレスです。クライアント / サーバーシステムの場合は、サーバーの **MAC** アドレスになります。
- OpenLab CDS EZChrom Edition がインストール済みのコンピューターから **MAC** アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、**[管理] > [ライセンス]** セクションを参照してください。**[MAC アドレスのコピー]** または **[MAC アドレスの保存]** 機能を使用して、ライセンス作成のために **MAC** アドレスを入手します。

注記

ライセンスをインストールした後でコンピューター名またはドメインリファレンスに変更された場合、ライセンスを削除してください。新しいライセンスを SubscribeNet で作成し、ダウンロード、およびインストールする必要があります。

注記

ライセンス作成時に使用した **MAC** アドレスを持つネットワークアダプタがマシンから外されると、お使いのライセンスは有効ではなくなります。新しいライセンスは、ライセンスサーバー上で現在利用可能な **MAC** アドレスを使用して作成する必要があります。

- 8 ライセンスが作成されたら、詳細を表示して、**[Download License File]** をクリックします。お使いのコンピューターおよびバックアップロケーション (ポータブル記憶装置など) にライセンスファイルを保存します。
- ライセンスファイルの再作成や、新規承認コードの追加、またはシステムへのライセンス追加作成のために、**Agilent SubscribeNet** サイトを再び訪れる際に、ログイン **ID** とパスワードを使用します。

SubscribeNet で登録済みのユーザー

- 1 電子メールアドレスとパスワードを使用して **SubscribeNet** にログインします。
- 2 複数のアカウントがある場合は、**Authorization Code**（認証コード）に関連している **SubscribeNet** アカウントを選択します。
- 3 **SubscribeNet** のナビゲーションウィンドウから、**[Register Authorization Code]** を選択します。
このようにして、新しい **Authorization Code** を入力し、新しいライセンスを使用できるようにします。
- 4 この前に記載されている手順（「新規ユーザー」）のステップ 6 から 8 に従い、新しいライセンスの作成または表示を行います。

ライセンスを入手するためのその他の方法

ライセンスを作成できない場合は、お近くの **Agilent** サポートオフィスにお問い合わせください。担当者が **OpenLab CDS** ライセンス申請書を送信する方法をお伝えします。

オフラインライセンス

お客様のラボでインターネット接続が利用できない場合：

お客様自身またはローカルオンサイトサービスエンジニアが必要な情報を収集し、**Agilent** がお客様のためにライセンスアカウントを作成できるようになります。電話でのサポートについては、販売・サービスの電話番号までお問い合わせください。様々な国での電話番号リストは、付録に記載されています。

Agilent ライセンスサポートに必要な顧客情報：

お客様の代理でライセンスアカウントを作成する場合は、次の情報を **Agilent** に提出する必要があります。

6 ライセンス ライセンスの取得

1 アカウント情報：

アカウント名は、カンマで区切った会社名と実験室名になります。ここで提供される社員情報は、必要に応じて、システムへの今後のアクセスのために、お客様のアカウントの最初の管理者を指定するために使用されます。迅速なサービスをご提供できるように、**Agilent** 販売・サービスセンターにご連絡いただく前に、次の情報を用意してください。

- 会社名
- 実験室 / 部門名
- 名
- 姓
- 電子メールアドレス
- 役職名
- 電話番号
- 国名、都道府県名を含めた住所

2 Authorization Code:

Authorization Code は、薄紫色の封筒に入っているラベルに記載された英数字のコードです。複数のコードを受け取られた場合は、ご注文いただいたライセンスをすべてお客様のアカウントに付与できるように、すべてのコードをご提示ください。

3 ライセンスの受信：

上記の情報をご提供いただいた後、**Agilent** ではお客様の代理で **SubscribeNet** 経由でライセンスを作成します。ライセンスファイルは、発送先アドレスに送付されるか（**CD** で）、または **FSE** が直接お届けします（通常は **USB** メディアを使用）。ライセンスを受け取ったら、次のセクション「ライセンスのインストール」に従って **CDS** システムでライセンスのインストールを行ってください。


ライセンスのインストール

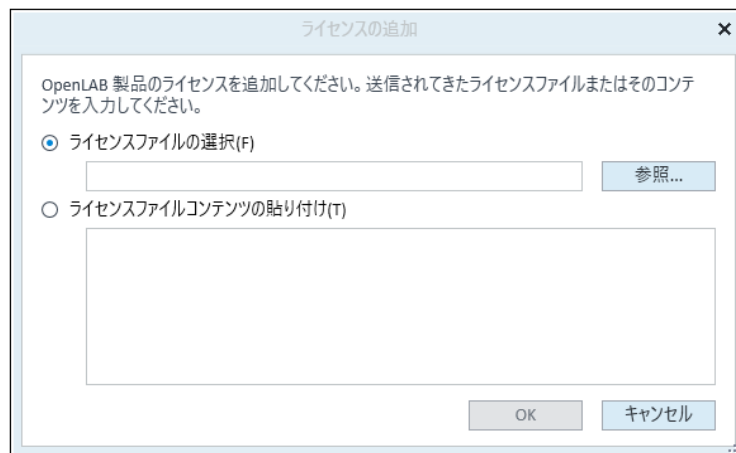
ライセンスサーバーの設定

- 1 ナビゲーションウィンドウで【**ライセンス**】を選択します。有効なライセンスファイルまたはサーバーを追加して、OpenLab CDS ワークステーションソフトウェアを有効にします。

ライセンスのインストール

ライセンスはコントロールパネルを使用してシステムに追加する必要があります。

- 1 デスクトップの【**コントロールパネル**】ショートカットをダブルクリックするか、【**スタート**】>【**すべてのプログラム**】>【**Agilent Technologies**】>【**OpenLab Shared Services**】>【**コントロールパネル**】の順に選択します。
- 2 【**管理**】>【**ライセンス**】の順に選択します。
- 3 リボン内の【**ライセンスの追加**】 をクリックします。



6 ライセンス

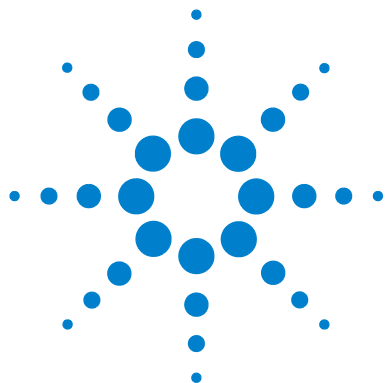
ライセンスのインストール

4 次のようにライセンスのインストールを選択します。

- [ライセンスファイルの選択] オプションを使用して、**SubscribeNet** のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイル (.lic) を参照して開きます。
- [ライセンスファイルコンテンツの貼り付け] オプションを選択し、受信したテキストファイルのライセンステキストを、所定のフィールドにコピーします。

5 **[OK]** をクリックします。

コントロールパネルの **【管理】** インターフェイスでは、インストールしたライセンスのステータスが表示されます。



7 コントロールパネルでの OpenLab CDS の設定

この章では、ソフトウェアのインストール後の初期設定手順について説明します。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。



認証プロバイダーおよび保存ロケーションの設定

- 1 デスクトップの OpenLab Control Panel のショートカットから OpenLab Control Panel を開くか、[スタート] > [Agilent Technologies] > [コントロールパネル] から開きます。
- 2 ナビゲーションペインから [管理] > [システムコンフィグレーション] を選択します。
- 3 システムコンフィグレーションツールバーから、[システム設定の編集] を選択します。

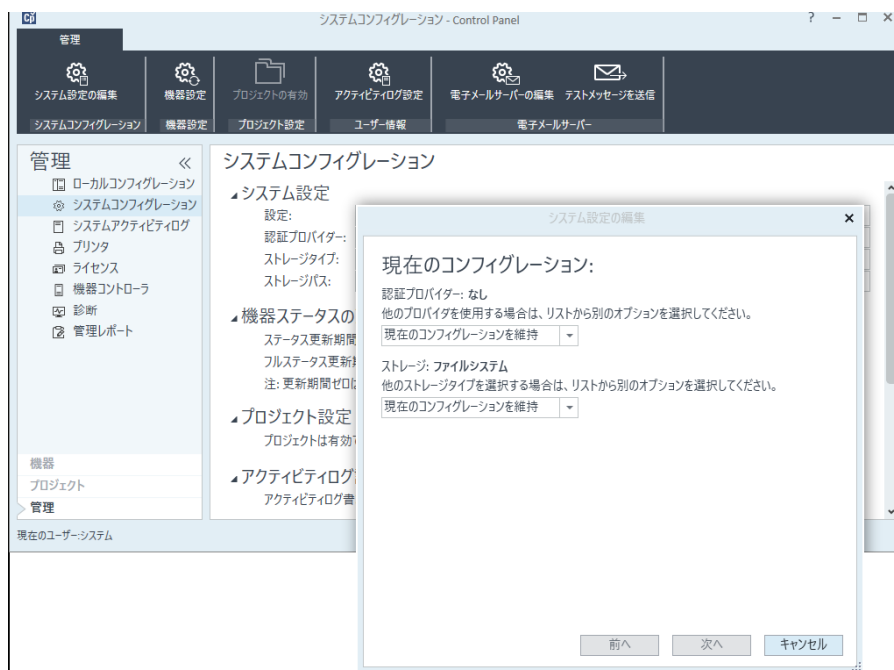


図 3 OpenLab Control Panel のシステム設定の編集ダイアログ

- 4 システム設定の編集ウィンドウで、ドロップダウンリストから認証プロバイダーを選択します。

サーバーをインストールした場合、インストール時に**内部**認証プロバイダーが自動的に設定されます。必要に応じて、認証プロバイダーを **Windows ドメイン** に変更できます。
- 5 ドロップダウンリストからストレージプロバイダを選択します。

ストレージタイプ **Content Management** は、OpenLab Server が展開されている場合のみ使用できます。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 システムを管理するユーザーを選択します。
 - a 認証プロバイダーとして**内部**を選択した場合：
 - **[アカウントの作成]** を選択します。
 - **管理者アカウントの作成** ダイアログボックスで、**名前**と**パスワード**を入力します。
 - b 認証プロバイダーとして **Windows ドメイン**を選択した場合：
 - チェックボックスを選択し、入力フィールドをアクティブにします。
 - **ドメイン**、**ユーザー**、および**パスワード**を入力します。
 - **[アカウントの選択]** を選択します。
 - 検索ストリングを入力します。
 - **ユーザーの検索** ダイアログボックスで、**[検索]** を選択して、ユーザーのリストを表示します。
 - ユーザーを選択します。
 - c 認証プロバイダーとして **ECM** を選択した場合：
 - **ECM サーバー URL** を提供して、ECM ユーザー認証情報を入力します。
 - **[アカウントの選択]** を選択します。
 - 検索ストリングを入力します。
 - **ユーザーの検索** ダイアログボックスで、**[検索]** を選択して、ユーザーのリストを表示します。
 - ユーザーを選択します。
- 8 **[OK]** を選択します。
- 9 **[次へ]** をクリックします。
- 10 設定を確認して、**[適用]** を選択します。

セキュリティポリシーの設定

特定の基準に準拠する必要がある場合、必要に応じてセキュリティポリシーを調整してください。

認証プロバイダーが **【内部】** である場合、すべてのパラメータをコントロールパネルで設定できます。外部の認証プロバイダーを使用すると、コントロールパネルでアプリケーションをロックするまでの時間のみを設定できますが、その他のパラメータはすべて外部システムによって定義されます。

- 1 コントロールパネルを起動し、**【管理】** へ移動します。
- 2 ナビゲーションウィンドウの **【セキュリティポリシー】** を選択します。
- 3 リボン内の **【セキュリティポリシーの編集】** をクリックします。

ユーザー / グループ / ロールの設定

- 1 **OpenLab Control Panel** を起動し、**【管理】** へ移動します。
- 2 ナビゲーションウィンドウで **【ユーザー】** を選択します。OpenLab CDS ワークステーションにアクセスするユーザーをインポートまたは作成します。
- 3 ナビゲーションウィンドウで **【グループ】** を選択します。OpenLab CDS ワークステーションにアクセスするグループをインポートまたは作成します。
- 4 ナビゲーションウィンドウで **【ロール】** を選択します。ロールを作成または編集して、**【ユーザー】** または **【グループ】** をそれらのロールに割り当てます。
- 5 ECM を使用する場合は、ECM および EZChrom Edition の両方に、いくつかのデフォルトロールがあります。各グループに対して特定のロールを割り当てる必要があります。ロールおよび権限は、ECM と EZChrom とで別々に設定する必要があります。
 - ECM で設定する権限は、ECM でアクセス可能なコンテンツおよび機能を指定します。
 - OpenLab Control Panel で設定する権限は、機器権限、EZChrom で使用できる機能、ならびに OpenLab Control Panel で実行可能な管理タスクを定義します。

ユーザーの作成またはインポート

ルールと権限を管理するには、OpenLab Control Panel を使用します。ユーザーにさまざまなアクセスを提供するため、カスタムルールを作成したり、事前に定義されたルールを割り当てたりすることができます。

ユーザーの追加（内部認証のみ）

- 1 ナビゲーションウィンドウから **[管理]** > **[ユーザー]** をクリックします。
- 2 **[ユーザーの作成]** ダイアログで、関連するパラメータを入力します。
 - 新規ユーザーの名前とパスワードを入力します。
 - デフォルトでは、新規ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。パスワードを変更する必要がない場合は、**[ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要]** チェックボックスをオフにします。
 - **[ロールメンバーシップ]** タブで、ユーザーを適切なロールに割り当てます。デフォルトロールを使用するか、コントロールパネルの **[管理]** > **[ロール]** で独自のロールを作成できます。
- 3 **[OK]** をクリックします。

ユーザーのインポート

システムに Windows ドメインユーザーを追加するには、ユーザーとグループ情報をドメインから取得する権限を持っている必要があります。

- 1 ナビゲーションウィンドウから **[管理]** > **[ユーザー]** をクリックします。
- 2 リボン内の **[インポート]** をクリックします。
- 3 **[ユーザーの検索]** ダイアログボックスに、ユーザー名の検索文字列を入力します。
- 4 **[検索結果]** リストから、インポートするユーザーを選択し、**[追加]** をクリックします。選択したユーザーが **[選択されたユーザー]** リストに追加されます。
- 5 ステップ 2 から 4 を繰り返して、インポートするすべてのユーザー名を **[選択されたユーザー]** リストに追加し、**[OK]** をクリックします。

グループ

外部認証プロバイダーを利用する場合、外部システムの既存グループをインポートするか、新しく内部グループを作成することができます。マッピングおよび作成できるグループの数に制限はありません。

外部システムまたはコントロールパネルのグループにユーザーを割り当てます。OpenLab CDS EZChrom Edition にのみ関係のある追加のユーザー割り当てが必要な場合には、コントロールパネルに作成します。ユーザー割り当てが必要でない場合は、グループをインポートして、そのグループに必要なロールを割り当てるだけで十分です。

グループを削除またはマッピング解除する場合、そのグループのメンバーであるユーザーに対する変更は行われません。

ロールと権限

ロールは権限をユーザーまたはユーザーグループに割り当てるために使用され、全体的にまたは特定の機器、ロケーションごとに割り当てることが可能です。システムには定義済みロールのリストが、システムインストールの一部としてインストールされています (**機器管理者**、**機器ユーザー**、**すべて**など)。各ロールには、固有の権限が割り当てられています。

権限は、主要な 3 つのロールタイプ (プロジェクトロール、機器ロール、管理ロール) にグループ化されています。ロールに権限を割り当てる場合、まず必要なロールタイプを選択してからそのロールタイプに関連する権限を選択します。各ロールは、指定された 1 つのロールタイプに対応する権限だけを有します。定義済みロールの**すべて**は唯一の例外で、このロールはすべてのロールタイプのすべての権限を有します。ユーザーまたはグループがシステム機能を実行するためには、複数のロールが必要な場合があります。例えば、**化学者**というロールを持つユーザーには、機器を実行する権限を持つ**機器ユーザー**といった別のロールが必要な場合があります。

コントロールパネルにさまざまなロケーションからなるツリーを作成し、該当するロケーションに機器を追加することが可能です。それぞれの機器や機器グループに、異なった機器ロールを割り当てることができます (100 ページの「**個別機器に関する特定のロール**」を参照)。たとえば、ユーザーが 1 台の機器で**機器管理者**ロールを持ち、別の機器で**機器ユーザー**ロールを持っている場合があります。

コントロールパネルでさまざまなプロジェクトまたはプロジェクトグループからなるツリーを作成し、さまざまなプロジェクトにさまざまなプロジェクトロールを割り当てることもできます (100 ページの「個別機器に関する特定のロール」を参照)。たとえば、ユーザーが 1 つのプロジェクトで **プロジェクト管理者** のロールを持ち、コントロールパネルで設定を管理することができます。もう 1 つのプロジェクトでは、このユーザーはプロジェクトの内容を編集することはできても、プロジェクトの設定を変更することはできないロールになっている場合があります。

表 3 ロールタイプの説明

ロールタイプ	説明
管理者権限	これらの権限はユーザーまたはグループに対して全体的に割り当てられ、機器、ロケーションレベルで変更することはできません。代表的な管理者権限に、 バックアップとリストア 、 セキュリティの管理 、 プリンタの管理 などがあります。
機器権限	これらの権限は、全体的に、または機器、ロケーションレベルで割り当てることが可能です。機器に関する権限には、 機器またはロケーションの表示 や 機器の実行 などがあります。コントロールパネルのロケーションと機器ツリーを閲覧するには、全体のレベルで [機器またはロケーションの表示] の権限が必要となります。
プロジェクト権限	さまざまなレベルのデータへのアクセスまたはその変更を行うための権限。これらの権限はグローバルに、またはプロジェクトレベルで割り当てることが可能です。

個別機器に関する特定のロール

デフォルトでは、ユーザーまたはグループのロールはすべてのロケーションまたは機器に対してグローバルに設定されています。ロールの設定はそれぞれ、ルートノードの**機器**から継承されます。1 つの特定のノードでユーザーまたはグループに異なったロールを割り当てるには、必要なノードの**権限の編集**ダイアログで**親からの権限の継承**チェックボックスをオフにします。その後、特定のノードについてのみ有効となる異なるロールを割り当てることが可能になります。

個々のロケーションまたは機器で**機器**のロールを割り当てることができます。

管理ロールは、常にグローバルに設定されます。

初期プロジェクトの設定

- 1 コントロールパネルを起動し、**[プロジェクト]** へ移動します。
- 2 プロジェクトを作成および設定します。

[EZChrom] タブで、

- メソッド、シーケンス、結果、シーケンステンプレートおよびレポートテンプレートのロケーションを入力します。
- そのプロジェクトに対して必要な監査証跡設定を行います。

詳細は、コントロールパネルのオンラインヘルプを参照してください。

初期機器のコンフィグレーション

- 1 OpenLab Control Panel を起動し、**[機器]** へ移動します。
- 2 リボン内の **[作成]** をクリックして、新しい機器を作成します。
- 3 機器の情報を入力し、**[OK]** をクリックします。

注記

Agilent 1120 および 1220 機器は、機器タイプ **Agilent Compact LC** でのみコンフィグレーションできます。この機器タイプを使用して、選択した Infinity LC モジュールを 1120 または 1220 機器と一緒にコンフィグレーションできます。詳細については、『*Supported Instruments and Firmware Guide (英語版)*』(CDS_SupportedInstFirmware.pdf) を参照してください。

1120 および 1220 機器用のドライバーは機器に付属しており、デフォルトでは OpenLab CDS EZChrom Edition には含まれていません。

- 3 新しい機器を選択し、リボン内の **[機器のコンフィグレーション]** をクリックします。
- 4 自動コンフィグレーションを使用して機器をコンフィグレーションすることを推奨します。モジュールを選択し、**[自動コンフィグレーション]** をクリックして、**[検出器の数]** および **[ポンプの数]** を入力します。必要に応じて **[オートサンブラ]** を選択します。

あるいは、マニュアルでデバイスをコンフィグレーションします。

- a **【選択可能なモジュール】** からモジュールを選択し、矢印をクリックして、**【使用するモジュール】** へ移動します。
 - b **【使用するモジュール】** をダブルクリックして、そのモジュールに関するダイアログボックスを開きます。
 - c **【オプション】** を選択します。
 - d **【コンフィグレーションオプション】** ダイアログボックスで、次の一般的なオプションから選択します：システムスータビリティ、SEC、PDA、およびベースラインチェック。
- 5 分散システムを使用する場合：機器で通常使うプリンターをコンフィグレーションします。
- a **【機器コンフィグレーション】** ダイアログの右下隅にある **【追加コンフィグレーション】** をクリックします。
 - b **【通常使うプリンタ】** を選択し、必要なプリンターを選択します。

注記

物理プリンターを選択して、すべてのクライアントで正しく機能することを確認してください。

- 6 設定を確認します。

コンフィグレーションできる機器台数の詳細については、『要件ガイド』を参照してください。

OpenLab でのプリントサーバーのコンフィグレーション

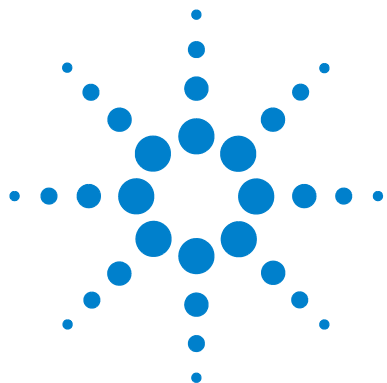
- 1 Shared Services サーバーでコントロールパネルにログインし、**[管理]** の **[プリンタ]** アイコンをクリックします。
- 2 **[プリンタ]** メニューの **[プリンタの追加]** をクリックします。
- 3 **[モニターの追加]** ボタンをクリックします。
- 4 **[新規プリンターの追加]** ダイアログで、以下を追加します。
 - **モニターフォルダー** : UNC またはキューフォルダーへのローカルパスを入力します (78 ページの「オペレーティングシステムでのプリントサーバーのセットアップ」を参照)。
 - **プリンタ** : オペレーティングシステムにインストールするプリンターを選択します。
 - **表示名** : - プリンターモニターの表示名を入力します。
 - **コメント** : コメントを入力します。
- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 プrintサーバーで、追加したプリンターを選択します。
- 7 **[モニターオン]** をクリックし、このプリンターに対して **[モニター設定]** を **[はい]** に設定します。これにより、プリントサーバーがキューフォルダーをモニターできるようになります。

[モニター設定] を **[いいえ]** に設定すると、プリントサーバーがこのフォルダーをモニターせずに、プリンターにファイルを送信します。
- 8 モニターフォルダーが UNC 名を使用する場合、アクセスベースの列举子を無効にしてキャッシュをクリアし、共有にあるファイルやプログラムがオフラインで利用できないようにします。共有の設定方法の詳細については、37 ページの「Windows Server 上でエンタープライズパスの設定」を参照してください。
- 9 プrintサーバーのステータスが **[実行中]** に変更されます。

[プリントサーバー停止] をクリックすると、プリントサーバーサービスがシャットダウンし、プリントサーバー機能が停止します。どのプリンターもこの時点で動作しません。

注記

分散システムのプリントサーバーへ出力するには : 分散システムの任意のクライアントからプリントサーバーにアクセスできます。シングルランの開始時や、シーケンスの開始時、または再解析時に、画面の **[プリンタへの出力]** セクションでお使いのプリンターを選択します。ドロップダウンリストのプリンターは、プリントサーバーのもので



8

新しいソフトウェアバージョンへの アップグレード

この章では、OpenLab CDS EZChrom Edition の各リビジョンからのアップグレードについて説明します。



アップグレードのプラン

EZChrom のリビジョンに応じて、ネットワークまたは分散システムの A.04.09 へのアップグレードを直接行えるか、または中間アップグレードが必要となります。ネットワークまたは分散システムのアップグレードは、**Shared Services Server** または **Data Store Server/OpenLab Server** から実施します。**ECM Server** をアップグレードする必要がある場合、**Shared Services Server** の前に最初にアップグレードする必要があります。サーバーをアップグレードしたら、AIC、CDS クライアント、またはネットワークワークステーションをアップグレードします。106 ページの「[ネットワークまたは分散システムのアップグレードのワークフロー](#)」を参照してください。

Windows 10 オペレーティングシステムへの一括アップグレードは **OpenLab CDS EZChrom Edition** ではサポートされていません。

アップグレード中の下位互換性

アップグレード中に、お使いの環境内に異なる複数のバージョンの **OpenLab CDS** が存在することになる場合もあります。データの分析と再解析は、取込まれたまたは前回の再解析に使用したものと同じかそれより後のバージョンでしかサポートされません。

異なる複数のバージョンがある環境は、アップグレード中のみに使用することをお勧めします。詳細については、『*OpenLab CDS EZChrom Edition 管理者用ガイド*』（CDS_admin.pdf）を参照してください。

ネットワークまたは分散システムのアップグレードのワークフロー

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.07 SR2 以降からのアップグレード

EZChrom A.04.09 は、さまざまなバックエンドストレージ製品（OpenLab Server、OpenLab ECM XT Server、および ECM 3.x Server）をサポートしています。OpenLab ECM バックエンドのあるネットワーク環境または分散システムの場合、OpenLab Shared Services Server A.02.02 を維持するか、OpenLab CDS Shared Services Server 2.3 へアップグレードすることができます。OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server バックエンドがある場合、既存のバージョンを維持するか、OpenLab Server 2.3 へアップグレードすることができます。

Windows 10 で CDS クライアントまたはネットワークワークステーションを実行してシステムを拡張する場合や、Microsoft SQL Server 2014 を使用して OpenLab Shared Services Server データベースをホストする場合は、サーバーを OpenLab CDS Shared Services 2.3 または OpenLab Server 2.3 へアップグレードする必要があります。

既存の OpenLab Shared Services Server A.02.02 を維持する場合、最新のソフトウェアアップデート (" 修正プログラム ") がインストールされていることを確認してください。

- 1 オプション: OpenLab Shared Services Server を OpenLab CDS Shared Services 2.3 へアップグレードします。

または

オプション: OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server を使用している場合、OpenLab Server 2.3 へアップグレードします。

- 2 AIC、CDS クライアント、およびネットワークワークステーションを EZChrom A.04.09 へアップグレードします。

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.07、A.04.06、A.04.05、 A.04.04、または A.04.03 からのアップグレード

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.07、A.04.06、A.04.05、A.04.04、または A.04.03 からアップグレードする場合、2 段階の処理が必要です。サーバーおよびクライアントの両方を、OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.07 SR2 など、直接アップグレードをサポートしているリビジョンへアップグレードする必要があります。中間アップグレードを行ったら、OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.09 へアップグレードする前に、システムが正しく動作することを確認してください。

手順 1: OpenLab CDS A.02.02 (A.04.07 SR2) へアップグレード

- 1 サーバーをアップグレードします。
 - a OpenLab Shared Services Server をリビジョン A.02.02 へアップグレードします。
または
 - b OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server を使用している場合、Data Store A.02.02 へアップグレードします。
- 2 AIC、CDS クライアント、およびネットワークワークステーションを EZChrom A.04.07 SR2 へアップグレードします。

注記

バージョン A.04.03 から A.04.06 までのシステムを使用してのアップグレードは、これまでの操作を持続することができます。
詳細については、『OpenLab CDS EZChrom Edition 管理者用ガイド』の「アップグレード中の下位互換性」(CDS_admin.pdf) を参照してください。

- 3 次の手順を行う前に、システム全体が機能していることを確認してください。

手順 2: A.04.09 へのアップグレード

- 1 サーバーをアップグレードします。
 - a OpenLab Shared Services Server を OpenLab CDS Shared Services 2.3 へアップグレードします。
または
 - b OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server を使用している場合、OpenLab Server 2.3 へアップグレードします。
- 2 AIC、CDS クライアント、およびネットワークワークステーションを A.04.09 へアップグレードします。

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.02 または A.04.01 からのアップグレード

OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.02 または A.04.01 からのアップグレード手順はありません。これらのリビジョンは、A.04.09 をインストールする前にアンインストールする必要があります。

アプリケーションをアンインストールし、A.04.09 をインストール

- 1 OpenLab Shared Services Server の古いリビジョンをアンインストールします。
- 2 OpenLab CDS Shared Services Server 2.3 をインストールします。
- 3 AIC、CDS クライアント、およびネットワークワークステーションから古いリビジョンをアンインストールします。
- 4 OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.09 を AIC、クライアント、およびネットワークワークステーションにインストールします。

ライセンスアップグレード

A.02.01 以前のバージョンからアップグレードする場合は、新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードするために新しいライセンスを入手する必要があります。

エンジニアのサポートを受けずに、ネットワークワークステーション、AIC、または分散システムでライセンスアップグレードを実行しないでください！

最寄りの弊社販売担当者を検索するには、121 ページの「営業およびサポートのお問い合わせ先」を参照してください。

Data Store Server/OpenLab Server のアップグレード

詳細については、『OpenLab ECM XT インストールガイド』を参照してください。

OpenLab CDS Shared Services Server でのアップグレードウィザードの実行

以下の手順を実行して、A.04.09 へアップグレードしてください。

- 1 インストールメディアから **Master Installer** を起動します。
- 2 Master Installer の **【プラン】** 画面から、**【インストール】** 画面に切り替えます。
- 3 **【OpenLab CDS EZChrom Edition】** を選択します。
【規約に同意します】 を選択します。この条件に同意しないとアップグレードを開始できません。**【次へ】** をクリックします。
- 4 **【アップグレードタイプ】** 画面で、OpenLab Shared Services の資格情報を入力します。
【追加項目】 画面の適切なセクションを選択し、**【次へ】** をクリックします。ECM を選択した場合、ECM サーバー名を入力して **【テスト接続】** をチェックし、成功した場合は **【次へ】** をクリックします。
- 5 アップグレードウィザードの **【サマリ】** 画面に、アップグレード対象のコンポーネントのリストが表示されます。**【開始】** を選択してアップグレードを開始します。
アップグレード中にエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されず。コンポーネントが正しくアップグレードされると、**【ステータス】** フィールドに表示されるステータスが **【インストール済み】** から **【アップグレード成功】** に変わります。
- 6 アップグレードが完了すると、警告メッセージが表示され、変更を有効にするには Windows を再起動する必要があることが伝えられます。
【はい】 を選択して Windows を再起動します。
Windows を後で再起動する場合は、**【いいえ】** を選択します。

アップグレード後に、OpenLab Shared Services メンテナンスツールの設定を確認してください。サーバー管理の詳細については、『*OpenLab CDS EZChrom Edition 管理者用ガイド*』を参照してください。

8 新しいソフトウェアバージョンへのアップグレード

AIC、クライアント、またはネットワークワークステーションでのアップグレードウィザードの実行

AIC、クライアント、またはネットワークワークステーションでのアップグレードウィザードの実行

この手順では、Master Installer の A.04.09 **OpenLab CDS アップグレードウィザード**について説明します。

- 1 Master Installer の **【プラン】** 画面から、**【インストール】** 画面に切り替えます。
- 2 **【OpenLab CDS EZChrom Edition】** を選択します。
OpenLab CDS がすでにインストールされているため、**【OpenLab CDS アップグレードウィザード】** が自動的に開きます。
- 3 ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。109 ページの **「ライセンスアップグレード」** を参照してください。
ライセンスがアップグレード済みであることを確認してから、**【次へ】** をクリックして先に進みます。
- 4 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しないとアップグレードを開始できません。**【次へ】** をクリックします。
- 5 認証プロバイダーがコンフィグレーションしてある場合：**【登録用の OpenLab Shared Services 設定】** 画面で、システム管理者の権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。**【次へ】** をクリックします。
- 6 **【追加項目】** 画面の適切なセクションを選択し、**【次へ】** をクリックします。
- 7 **【GATE（監査証跡）設定】** 画面で、AIC、クライアント、またはこのネットワークワークステーションで監査証跡を自動的に有効にするかどうかを選択します。必要に応じて、**【すべての監査証跡を有効】** チェックボックスをオンにします。**【次へ】** をクリックします。
監査証跡オプションを有効にすると、無効に戻すことはできません。
- 8 アップグレードウィザードの **【サマリ】** 画面に、アップグレード対象のコンポーネントのリストが表示されます。**【開始】** をクリックして、アップグレードを進めます。
アップグレード中にエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。
- 9 アップグレードが完了したら **【完了】** を選択して、**【OpenLab CDS アップグレードウィザード】** を閉じます。
既存の機器コンフィグレーションは、アップグレードの後も変更せずに残すことができます。

AIC、クライアント、またはネットワークワークステーションでのアップグレードウィザードの実行

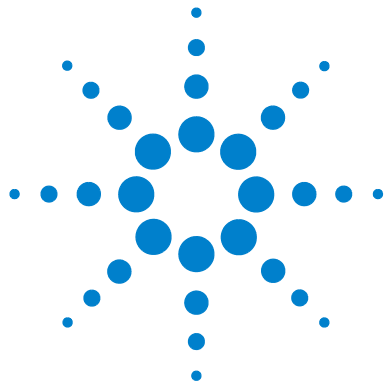
注記

35900 機器の場合、クラシックドライバーが Master Installer によって自動的にインストールされます。RC.NET ドライバーを使用する必要がある場合（AIC 上で 2 つの機器間でチャンネルを分割するなど）、先に新しいドライバーをインストールしてから機器を再コンフィグレーションする必要があります。

クラシックドライバーで作成されたメソッドは使用できなくなります。RC.Net ドライバーで新規メソッドを作成してください。

注記

A.04.08 以降では、フラクシオンコレクタ用のクラシックドライバーはサポートされません。機器コンフィグレーションを変更し、RC.NET ドライバーで新規メソッドを作成してください。



9

ソフトウェアのアンインストール

この章では、OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザードを使用したアンインストールについて説明します。



アンインストールについて

インストールと同様、アンインストールも OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer から自動的に実行できます。

注記

Master Installer を使ってインストールせずに、手動でインストールしたヘッドスペース、PAL、サードパーティドライバなどの追加ソフトウェアを OpenLab CDS EZChrom Edition をアンインストールする前に、Windows コントロールパネルから、アンインストールする必要があります。

Master Installer は、同じユーザーインターフェイスを使用してすべてのコンフィグレーションのソフトウェアのアンインストールができる仕様になっています（スタンドアロンまたはネットワークワークステーション）。Master Installer の **【メンテナンス】** セクションの **【OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード】** を使用すると、アンインストールの手順が表示されます。

OpenLab CDS EZChrom Edition をアンインストールするには、すべてのサーバーおよびクライアントに対する管理者権限を持っている必要があります。パワーユーザー権限では十分ではありません（修復を開始できません）。

注記

Windows のアンインストールツールは使用しないでください。

CDS クライアントでのアンインストールウィザードの実行

- 1 Windows 7 の場合、[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] > [OpenLab CDS のアンインストール] の順に選択します。
Windows 10、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016 の場合、[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab CDS のアンインストール] の順に選択します。
[OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード] が開きます。
- 2 **[共有コンポーネント]** 画面で、**[ソフトウェアベリフィケーションのアンインストール]** チェックボックスをオンにします。
注記 : OpenLab CDS EZChrom Edition を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。
- 3 **[OpenLab CDS コンポーネントのアンインストール]** の **[サマリ]** 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 4 **[開始]** を選択してアンインストールを開始します。
アンインストールを中止する場合は、**[キャンセル]** を選択します。設定を変更する場合は、**[戻る]** を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
- 5 アンインストールが完了したら、**[完了]** をクリックし、アンインストールウィザードを閉じます。

機器コントローラでのアンインストールウィザードの実行

- 1 Windows 7 の場合、[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] > [OpenLab CDS のアンインストール] の順に選択します。
Windows 10、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016 の場合、[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab CDS のアンインストール] の順に選択します。
[OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード] が開きます。
- 2 [共有コンポーネント] 画面で、[ソフトウェアベリフィケーションのアンインストール] チェックボックスをオンにします。
注記 : OpenLab CDS EZChrom Edition を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。
- 3 [OpenLab CDS コンポーネントのアンインストール] の [サマリ] 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 4 [開始] を選択してアンインストールを開始します。
アンインストールを中止する場合は、[キャンセル] を選択します。設定を変更する場合は、[戻る] を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
- 5 アンインストールが完了したら、[完了] をクリックし、アンインストールウィザードを閉じます。

OpenLab Shared Services Server でのアンインストール ウィザードの実行

- 1 Windows 7 の場合、**[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] > [OpenLab CDS のアンインストール]** の順に選択します。
Windows 10、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016 の場合、**[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab CDS のアンインストール]** の順に選択します。
[OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード] が開きます。
- 2 **[共有コンポーネント]** 画面で、**[ソフトウェアベリフィケーションのアンインストール]** をオンにし、**MS SQL Server 2012 R2、SQL Server 2014 Enterprise** または **Standard、PostgreSQL 9.3、Oracle 11G R2、Oracle 12C R1** などのデータベースをアンインストールします（必要に応じて）。
[SQL インスタンス] で、アンインストールするインスタンスをドロップダウンリストから選択します。

注記

OpenLab EZChrom Edition CDS を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。

- 3 **[次へ]** をクリックし、**[サマリ]** 画面に進みます。
- 4 **[OpenLab CDS コンポーネントのアンインストール]** の **[サマリ]** 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 5 **[開始]** を選択してアンインストールを開始します。
- 6 アンインストールを中止する場合は、**[キャンセル]** を選択します。設定を変更する場合は、**[戻る]** を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
コンポーネントが正しくアンインストールされると、**[メンテナンス]** 画面の **[ステータス]** フィールドに表示されるステータスが **[インストール済み]** から **[正常にアンインストールされました]** に変わります。
アンインストールが完了したら、**[完了]** をクリックし、**アンインストールウィザード** を閉じます。

ネットワークワークステーションでのアンインストールウィザードの実行

- 1 Windows 7 の場合、**[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] > [OpenLab CDS のアンインストール]** の順に選択します。
Windows 10、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016 の場合、**[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab CDS のアンインストール]** の順に選択します。
[OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード] が開きます。
- 2 **[共有コンポーネント]** 画面で、**[ソフトウェアベリフィケーションのアンインストール]** チェックボックスをオンにします。
注記 : OpenLab CDS EZChrom Edition を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。
- 3 **[OpenLab CDS コンポーネントのアンインストール]** の **[サマリ]** 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 4 **[開始]** を選択してアンインストールを開始します。
アンインストールを中止する場合は、**[キャンセル]** を選択します。設定を変更する場合は、**[戻る]** を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
- 5 アンインストールが完了したら、**[完了]** をクリックし、アンインストールウィザードを閉じます。



10 付録

この章には、Microsoft SQL Server 2012 に関する追加的な情報が記載されています。



SQL Server の認証を混合モードに変更

この手順では、既存の Microsoft SQL Server 2012 インストールでの混合モードへの切り替え方法について説明します。

- 1 SQL Server Management Studio を起動します。
- 2 [オブジェクトエクスプローラ] でサーバー名を右クリックし、コンテキストメニューから **[プロパティ]** を選択します。
- 3 **[サーバーのプロパティ]** ダイアログで、**[セキュリティ]** ページを選択します。
- 4 **[サーバー認証]** で、**[SQL Server と Windows 認証モード]** を選択します。
- 5 **[OK]** をクリックします。
- 6 ユーザー *sa* のログインを有効にします。
 - a [オブジェクトエクスプローラ] で、**[セキュリティ]** > **[ログイン]** の順に選択します。
 - b ユーザー *sa* を右クリックし、コンテキストメニューから **[プロパティ]** を選択します。
 - c **[ログインプロパティ]** ダイアログで、**[全般]** ページを選択します。
 - d 推測されにくいパスワードを指定します。
 - e **[状態]** ページを選択します。
 - f **[ログイン]** で、**[有効]** を選択します。
[OK] をクリックします。
- 7 SQL Server サービスを再起動し、SQL Server 認証でログインします。

営業およびサポートのお問い合わせ先

営業およびサポートのお問い合わせ先については、以下のウェブサイトを確認してください。

<https://www.chem-agilent.com/contents.php?id=1001827>

システムメンテナンス契約（SMA）を含むネットワーク コンフィグレーションをご購入の場合は、以下で優先的にサポートが受けられます。

www.agilent-labinformatics.com/support

SMA をご登録していただくと、以下をはじめとする数多くの利点を活用できます。

- オンラインチケット提出、優先対応、ステータストラッキング
- オンライン機能リクエストおよびトラッキング
- 簡単にアクセスできるセルフヘルプツールおよび便利なリンク

www.agilent.com

本書の内容

本インストールガイドでは、Agilent OpenLab クロマトデータシステム (CDS) EZChrom Edition ネットワークワークステーションおよび分散システムのインストールとコンフィグレーションについて説明しています。

© Agilent Technologies 2010-2018

Printed in Germany
07/2018



M8204-96000



Agilent Technologies